

大学院 履修の手引き

2011年度



福岡女学院大学大学院
人文科学研究科

目 次

I. 2011 年度 大学院学年暦	1
II. 履修要項	
1. 比較文化専攻履修の手引き	2
2. 臨床心理学専攻履修の手引き	5
3. 履修登録	7
4. 授業時間帯	7
5. 修士論文	8
III. 免許・資格	
1. 教育職員免許状【比較文化専攻、臨床心理学専攻】	11
2. 臨床心理士受験資格【臨床心理学専攻】	14
3. 日本語教員【比較文化専攻】	15
IV. 授業内容	
1. 比較文化専攻授業内容	16
2. 臨床心理学専攻授業内容	37
V. 大学院教員組織	
1. 比較文化専攻教員組織	57
2. 臨床心理学専攻教員組織	58
VI. 学則および大学院関連規程	
○ 福岡女学院大学大学院学則	60
○ 福岡女学院大学大学院学位規程	67
○ 福岡女学院大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程	69

I. 2011年度 大学院学年暦

前期

3月25日(金)	配布物・配布物説明・履修登録説明(2年次)
3月31日(木)～4月1日(金)	履修登録(2年次)学部授業科目の履修を含む
4月2日(土)	入学式
4月5日(火)～6日(水)	履修確認及び訂正(2年次)
	配布物・配布物説明・履修登録説明(1年次)
4月5日(火)～11日(月)	新入生オリエンテーション
4月8日(金)	履修登録(1年次)学部授業科目の履修を含む
4月9日(土)	履修確認及び訂正(1年次)
4月12日(火)	前期授業開始
	履修確認表配信
4月19日(火)～20日(水)	履修登録取消期間
4月18日(月)～22日(金)	春のキリスト教特別週間
4月25日(月)	履修確認表配信(取消のみ)
5月18日(水)	創立記念日【休講】
5月31日(火)	修士論文申告書提出締切
7月29日(金)	前期授業終了

後期

9月12日(月)～13日(火)	後期履修登録訂正
9月16日(金)	履修確認表配信
9月20日(火)	後期授業開始
10月3日(月)～4日(火)	履修登録取消期間
10月6日(木)	履修確認表配信(取消のみ)
10月11日(火)	全学修養会【2時限目のみ休講】
10月12日(水)～14日(金)	秋のキリスト教特別週間
10月20日(木)	葡萄祭準備【休講】
10月21日(金)～22日(土)	葡萄祭【休講】
12月13日(火)	クリスマス礼拝【4・5時限目休講】
12月22日(木)	年内授業終了
1月6日(金)	授業再開
1月10日(火)	修士論文提出締切
1月23日(月)	後期授業終了
3月2日(金)	修了許可者発表
3月14日(水)	卒業礼拝
3月15日(木)	学位記授与式

Ⅱ. 履修要項

1. 比較文化専攻履修の手引き

(1) 研究教育の目的

比較文化専攻の目的は、世界各地域の言語、文学、思想など文化現象の比較研究を行うとともに、国際化社会に対処できる高度な専門知識と広い視野を備えた人材を育成することにある。この目的を達成するため、次の諸点を研究教育の基本方針としている。

- ① 広い視野に立って、個別専門分野の課題を捉えるための深い洞察力を養う。
- ② 個別専門分野に立脚しつつ、他分野との関連に重点を置いた研究教育を行う。
- ③ 優れた国際感覚と先見性を培うためのコミュニケーション能力を養う。

(2) 教育課題

本専攻では、有機的に関連したカリキュラムを編成し、特定の研究分野に重点を置きつつ、関連分野を履修させることとしている。このため、専攻の研究分野に基礎科目、基幹科目、関連科目、特別研究科目を設けている。

基礎科目は、比較文化研究において、必須の基礎的条件である異文化交流と対象文化の言語を、体系的且つ専門的に極めるための基礎的科目である。

基幹科目は、比較文化研究の根幹をなす科目である。自国の文化を取り巻く東アジアと欧米の文化を研究し、日本語圏文化と英語圏文化をさらに深くきわめるための基となる科目である。

関連科目は、第Ⅰ類、日本語圏文化関連科目、第Ⅱ類、英語圏文化関連科目を配置している。基幹科目による、比較文化の姿勢と視点に立脚した、各文化圏の文学・文化・言語の研究と相俟って、より深い専門性と体系性を求めることを目的としている科目である。

特別研究科目は、基礎・基幹・関連科目を踏まえて、受講者が独自の研究課題を掘り起こし、それぞれの研究に取り組み、修士論文の執筆から完成へと導く科目である。

(3) 履修方法

本専攻においては、原則として、日本語圏コースまたは、英語圏コースのいずれかに所属し、それぞれ次の方法により授業科目を履修すること。

【日本語圏専修コース】

基礎科目から、必修科目として4単位を履修する。

基幹科目から、6単位以上を選択履修する。

基礎科目、基幹科目及び関連科目第Ⅰ類から、18単位以上を選択履修する。

【英語圏専修コース】

基礎科目から、必修科目として4単位を履修する。

基幹科目から、6単位以上を選択履修する。

基礎科目、基幹科目及び関連科目第Ⅱ類から、18単位以上を選択履修する。

上記の履修を基盤として、両専攻に「特別研究」という2年次必修科目が4単位設けられている。これは、修士論文作成のために、各個人の研究題目に応じて、主担当教員ほか、特に関係を有する分野の教員若干名によって指導チームが編成され、個別に研究指導が行われる。「特別研究科目群」は修了要件単位に含まれる。

なお、修士論文審査は、指導チームの教員のほか、両専攻の「特別研究」担当教員が参加して行われる。

(4) 修了要件と学位

「比較文化専攻」を修了するためには、2年以上在学して、所定の32単位以上を修得し、且つ、修士論文を完成して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。この要件を満たした者には、福岡女学院大学大学院学位規程に基づき、修士（比較文化）の学位を授与する。

(5) 人文科学研究科 比較文化専攻 授業科目一覧

	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考	
			必修	選択		
受 業 科 目 の 概 要	基礎科目	キリスト教と人間	1	2	4単位必修	基礎科目、 基幹科目、 及び関連 科目から 18単位 以上選択
		異文化交流特論	1	2		
		日本語学研究Ⅰ	1	4		
		日本語学研究Ⅱ	1	2		
		英語学研究Ⅰ	1	4		
		英語学研究Ⅱ	1	2		
		言葉とコミュニケーション研究	1	2		
	基幹科目	比較文化特殊研究Ⅰ（東アジアと英語圏文学）	1	2	6単位以上選択	
		比較文化特殊研究Ⅱ（東アジアの思想）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅲ（東アジアと日本古代文学）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅳ（日本近代文学と西欧文化）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅴ（表象文化としての演劇）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅵ（近代演劇の成立）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅶ（国語教育論）	1	2		
		比較文化特殊研究Ⅷ（国語教材論）	1	2		
	関連科目	【第Ⅰ類】				
		日本古典文学特殊研究	1	2		
		日本近代文学特殊研究	1	2		
		日本文学総合演習	1	4		
		漢文学特殊研究	1	2		
		古代文化特殊研究	1	2		
		民俗学特殊研究	1	2		
		日本語学特殊研究Ⅰ（日本語教育）	1	2		
日本語学特殊研究Ⅱ（日本語教育）		1	2			
【第Ⅱ類】						
英語学特殊研究		1	4			
英語圏文学特殊研究Ⅰ（英語圏の比較文化と文学）		1	2			
英語圏文学特殊研究Ⅱ（アメリカ文学）		1	4			
英語圏文学特殊研究Ⅲ（イギリス文学）		2	2			
英語圏文学特殊研究Ⅳ（アメリカのユダヤ系作家）		1	2			
英語圏文学総合演習	1	2				
英米思想特殊研究	1	2				
特別研究科目	特別研究Ⅰ	2	2	4単位必修		
	特別研究Ⅱ	2	2			

人文科学研究科 比較文化専攻 修了要件単位数

科目群	必須	選択	修了要件単位
基礎科目	4	—	28
基幹科目	0	6	
関連科目	0	—	
特別研究科目	4	0	4
合計	8	24	32

2. 臨床心理学専攻履修の手引き

(1) 研究教育の目的

臨床心理学専攻の目的は、臨床心理学に関する精深な学識をもつとともに、広い視野に立って人々の心のケアに携わる専門家を育てることにある。授業科目は、臨床心理学分野の科目とこれに関連する心理学分野の科目から構成され、「演習」と「実習」を重視した内容になっている。

(2) 履修方法

基礎科目はすべて必修で6単位を履修する。

基幹科目はすべて必修で、16単位を履修する。

展開科目および関連科目から6単位以上を選択履修する。

特別研究科目はすべて必修で、4単位を履修する。

特別研究科目は、修士論文作成のために、各個人の研究題目に応じて、主担当教員ほか、特に関係を有する分野の教員若干名によって指導チームが編成され、個別に研究指導が行われる。「特別研究科目群」は修了要件単位に含まれる。

なお、修士論文審査は、指導チームの教員のほか、両専攻の「特別研究」担当教員が参加して行われる。

(3) 修了要件と学位

「臨床心理学専攻」を修了するためには、2年以上在学して、所定の32単位以上を修得し、且つ、修士論文を完成して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。この要件を満たしたものには、福岡女学院大学大学院学位規程に基づき、修士（心理学）の学位を授与する。

(4) 人文科学研究科 臨床心理学専攻 授業科目一覧

	授業科目の名称	配当年次	単位数		備 考	
			必修	選択		
受 業 科 目 の 概 要	基礎科目					
	キリスト教と人間	1	2		6 単位必修	
	社会心理学特論	1	2			
	発達心理学特論	1	2			
	基 幹 科 目	臨床心理学特論Ⅰ	1	2		16 単位必修
		臨床心理学特論Ⅱ	1	2		
		臨床心理面接特論Ⅰ	1	2		
		臨床心理面接特論Ⅱ	1	2		
		臨床心理査定演習Ⅰ	1	2		
		臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		
		臨床心理基礎実習	1	2		
		臨床心理実習	2	2		
	展 開 科 目	人間関係特論	1		2	6 単位以上選択
		家族関係特論	1		2	
		心理学研究法特論	1		2	
		心理統計法特論	1		2	
		人格心理学特論	1		2	
		集団力学特論	1		2	
		精神医学特論	1		2	
		障害児者心理学特論	1		2	
投影法特論		1		2		
臨床薬理学特論		2		2		
コミュニティ・アプローチ特論		1		2		
教育心理学特論		1		2		
学校臨床心理学特論		1		2		
関 連 科 目		異文化交流特論	1		2	
	教育人類学特論	1		2		
	高齢者心理療法特論	1		2		
	生徒指導・進路指導 (含実習)	1		2		
	教育評価・心理検査 (含実習)	1		2		
	倫理学特論	1		2		
	宗教哲学特論	1		2		
	西洋思想特論	1		2		
特 別 研 究 科 目	特別研究Ⅰ	2	2		4 単位必修	
	特別研究Ⅱ	2	2			

人文科学研究科 臨床心理学専攻 修了要件単位数

科目群	必 須	選 択	修了要件単位
基礎科目	6	0	6
基幹科目	16	0	16
展開科目	0	6	6
関連科目	0		
特別研究科目	4	0	4
合 計	26	6	32

3. 履修登録

各年度において履修する授業科目を、所定の期間内に登録してください。履修登録結果について、後日履修登録確認表を配信しますので、必ず確認してください。

4. 授業時間帯

本学での授業時間は次のとおりです。1時限から5時限は学部と共通の時間帯ですが、6時限・7時限のみ大学院専用の時間帯となります。

	月～金	土	*キリスト教特別週間
1 時 限	9 : 15 ~ 10 : 45	9 : 15 ~ 10 : 45	9 : 15 ~ 10 : 40
チャペル	10 : 55 ~ 11 : 15	—————	10 : 50 ~ 11 : 30
2 時 限	11 : 25 ~ 12 : 55	10 : 55 ~ 12 : 25	11 : 40 ~ 13 : 05
昼 休 み	12 : 55 ~ 13 : 45		13 : 05 ~ 13 : 55
3 時 限	13 : 45 ~ 15 : 15		13 : 55 ~ 15 : 20
4 時 限	15 : 25 ~ 16 : 55		15 : 30 ~ 16 : 55
5 時 限	17 : 05 ~ 18 : 35		17 : 05 ~ 18 : 30

*キリスト教特別週間の期間は学年暦を参照してください

5. 修士論文の提出及び最終試験

本大学院に1年以上在学し、所定の授業科目を履修した者は、修士論文を提出することが出来ます。

(1) 論文題目の届け出

- 1) 修士論文を提出しようとする者は、所定の用紙に指導教授の承認印を得たうえで、所定の期日に修士論文申告書を教務課に提出しなければなりません。

修士論文申告書提出日時：5月31日9：00～17：30

- 2) 当該年度に修士論文を提出しない者は、その旨必ず指導教員及び教務課に届け出なければなりません。

(2) 論文の形式等の「作成要領」は各専攻が別に定めます。

(3) 論文の提出

- 1) 修士論文は1編1部とし、別にコピー1部を添付する。なお、提出された論文は返還しない。

- 2) 提出日時並びに提出場所

論文提出日時：1月10日9：00～17：00 **[時間厳守]**

提出場所：教務課

詳細は掲示によって発表する。

(4) 論文の審査及び最終試験

- 1) 修士課程を修了するためには、修士論文審査及び最終試験に合格しなければなりません。

- 2) 修士論文を提出した者は、当該年度の所定期間に最終試験を受けるものとします。最終試験は、口述によって行います。

最終試験期間：2月初旬

修士論文作成要領（比較文化専攻）

1. 修士論文を提出するためには、修了年次に「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（4単位）を含めた修了に必要な単位を登録し、履修しなければなりません。
2. 修士論文の指導教員は本学の専任者としします。
3. 院生はあらかじめ修士論文の指導を希望する先生の内諾を得て下さい。
4. 院生は修士論文の主題を含めた「修士論文申告書」（所定の用紙）を修了年次の5月末日（土・日曜日を除く）午後5時30分までに、教務課に提出して下さい。
5. 修士論文は、修了年次の1月10日午後5時までに、教務課に提出して下さい。当日が休日の場合は、その翌日の同時刻までとします。

修士論文の提出の際は、次のことを守って下さい。

 - ① 定められた日時までに提出しなかった場合は、原則として受理されませんから、十分注意して下さい。
 - ② その他、次のことに留意して下さい。
 - A. 修士論文は本人の提出が原則です。
 - I. 原則として郵送は認めません。病気、その他止むを得ない理由により本人が提出できない場合は、事前に教務課に届け、指示を受けて下さい。
 - ウ. 一度提出した修士論文の変更、訂正は認めません。
6. 修士論文の審査には、口述試験をあわせて行います。
7. 修士論文を再履修する場合の取り扱いは、次の通りです。
 - (1) 前年度と同一教員の指導下において、修士論文を再履修、再提出する場合は、半期の履修を認めます。
 - (2) 9月修了予定者の修士論文等の提出期限は下記の通りです。
 - A. 修士論文の最終題目は、修了年次の4月末日（土・日曜日を除く）午後5時30分までに教務課に提出して下さい（修士論文申告書の提出は不要です）。
- I. 修士論文は、修了年次の5月末日（土・日曜日を除く）午後5時までに教務課に提出して下さい。
 - (3) 上記（1）の条件と異なった場合は、1年の履修を必要とします。
8. 修士論文の細則は次の通りです。

〔第1類 日本語圏コース〕

 - (1) 日本語圏コースの修士論文は、日本文化に関するものとします。なお、日本に関わりのある比較文化に関するものも含まれます。
 - (2) 修士論文の長さは、400字60枚以上とします。縦書きでも横書きでも可。
 - (3) 原則としてPC印字はA4判用紙を用い、最初のページに書式を明記して下さい。
 - (4) A4判の厚紙用紙で綴じて下さい。

〔第2類 英語圏コース〕

 - (1) 英語圏コースの修士論文は、英語圏の文化に関するものとします。
 - (2) 修士論文は、英文または和文で作成して下さい。
 - (3) 英文で修士論文を作成する場合は、本文の長さを6,000語以上として、A4の用紙にダブルスペースで印字して下さい。
 - (4) 和文で修士論文を作成する場合は、本文の長さを400字60枚以上とし、A4の用紙に横書きで印字して下さい。
9. 修士論文提出日2ヶ月前までに修士論文および口述試験のレジメの提出要領を配布するので、留意して下さい。

修士論文作成要領（臨床心理学専攻）

1. 修士論文を提出するためには、修了年次に「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（4単位）を含めた修了に必要な単位を登録し、履修しなければなりません。
2. 修士論文の指導教員は本研究科の専任教員とします。
3. 院生はあらかじめ修士論文の指導を希望する教員の内諾を得て下さい。
4. 院生は修士論文の主題を含めた「修士論文申告書」（所定の用紙）を修了年次の5月末日（土・日曜日を除く）午後5時30分までに、教務課に提出して下さい。
5. 修士論文は、修了年次の1月10日午後5時までに、本人が直接教務課に2部提出して下さい。当日が休日の場合は、その翌日の同時刻までとします。
修士論文の提出の際は、次のことを守って下さい。
 - (1) 定められた日時までに提出しなかった場合は、原則として受理されませんから、十分注意して下さい。
 - (2) その他次のことに留意して下さい。
 - ① 原則として郵送は認めません。病気、その他止むを得ない理由により本人が提出できない場合は、事前に教務課に連絡し、指示を受けて下さい。
 - ② 原則として、一度提出した修士論文の変更、訂正は認めません。
6. 修士論文の審査には、口述試験を合わせて行います。
7. 修士論文を再履修する場合の取り扱いは、次の通りです。
 - (1) 前年度と同一教員の指導下において、修士論文を再履修、再提出する場合は、半期の履修を認めます。9月修了予定者の修士論文などの提出期限は下記の通りです。
 - ① 修士論文の最終題目は、修了年次の4月末日（土・日曜日を除く）午後5時30分までに教務課に提出して下さい（修士論文申告書の提出は不要です）。
 - ② 修士論文は修了年次の5月末日（土・日曜日を除く）午後5時までに教務課に提出して下さい。
 - (2) 上記（1）の条件と異なった場合は、1年の履修を必要とします。
8. 修士論文の原稿執筆要領は次の通りです。
 - (1) 原則としてA4判用紙を用い、PC印字をして下さい。
 - (2) レイアウトは下記の要領にしたがって下さい。
 - ① 横書きにすること。
 - ② 1ページにつき1行32字×25行。脚注は罫線を引いてその下に記入すること。
 - ③ 文字サイズは12ポイント前後とする。
 - ④ 上下左右それぞれ下記のスペースを設けること。
上：25mm
下：35mm
左：25mm
右：15mm
 - ⑤ 下部中央にページ番号をつけること。
 - ⑥ カラー写真以外は白黒印刷をすること。
9. 修士論文提出日2ヶ月前までに修士論文および口述試験のレジメの提出要領を配布するので、留意して下さい。

Ⅲ. 免許・資格

1. 教育職員免許状【比較文化専攻、臨床心理学専攻】

本大学院において専修免許状を取得するためには、各々の学校の免許教科の一種免許状を取得している事が条件となります。

○本大学院（修士課程）において取得できる教育職員免許状

専攻	教員免許状の種類	免許教科
比較文化専攻	中学校専修免許状	国語または英語
	高等学校専修免許状	国語または英語
臨床心理学専攻	中学校専修免許状	社会
	高等学校専修免許状	公民

○教育職員免許状取得のための基礎資格と最低修得単位数

所要資格 免許状の種類	基礎資格	本大学院において修得することを必要とする最低修得単位数 「教科に関する科目」又は 「教職に関する科目」
中学校専修免許状 高等学校専修免許状	修士の学位を有すること	24 単位

- ※ 1種免許状を取得していない学生が専修免許状の取得を希望する場合は、学部において当該教科の1種免許状取得に必要な単位を修得しなければなりません。
この場合、2年間で当該単位を修得することが困難な場合があります。

○ 教職課程科目表

比較文化専攻

(国 語)

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開講科目	履修年次	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する科目	比較文化特殊研究Ⅱ (東アジアの思想)	1		2	24 単位以上選択必修
	比較文化特殊研究Ⅲ (東アジアと日本古代文学)	1		2	
	比較文化特殊研究Ⅳ (日本近代文学と西欧文化)	1		2	
	日本語学研究Ⅰ	1		4	
	日本語学研究Ⅱ	1		2	
	日本古典文学特殊研究	1		2	
	日本近代文学特殊研究	1		2	
	漢文学特殊研究	1		2	
	日本文学総合演習	1		4	
	古代文化特殊研究	1		2	

(英 語)

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開講科目	履修年次	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する科目	異文化交流特論	1	2		24 単位以上選択必修
	比較文化特殊研究Ⅰ (東アジアと英語圏文学)	1		2	
	英語学研究Ⅰ	1		4	
	英語学研究Ⅱ	1		2	
	英語学特殊研究	1		4	
	英語圏文学特殊研究Ⅰ (英語圏の比較文化と文学)	1		2	
	英語圏文学特殊研究Ⅱ (アメリカ文学)	1		4	
	英語圏文学特殊研究Ⅲ (イギリス文学)	2		2	
	英語圏文学特殊研究Ⅳ (アメリカのユダヤ系作家)	1		2	
	英語圏文学総合演習	1		2	
	英米思想特殊研究	1		2	
	言葉とコミュニケーション研究	1		2	

臨床心理学専攻
(社 会)

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開講科目	履修年次	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する科目	家族関係特論	1		2	24 単位以上選択必修
	集団力学特論	1		2	
	コミュニティ・アプローチ特論	1		2	
	倫理学特論	1		2	
	宗教哲学特論	1		2	
	西洋思想特論	1		2	
教職に関する科目	障害児者心理学特論	1	2	2	
	発達心理学特論	1			
	教育心理学特論	1		2	
	学校臨床心理学特論	1		2	
	教育人類学特論	1		2	
	生徒指導・進路指導 (含実習)	1		2	
	教育評価・心理検査 (含実習)	1		2	

(公 民)

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開講科目	履修年次	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する科目	社会心理学特論	1	2		24 単位以上選択必修
	人間関係特論	1		2	
	家族関係特論	1		2	
	心理学研究法特論	1		2	
	人格心理学特論	1		2	
	集団力学特論	1		2	
	コミュニティ・アプローチ特論	1		2	
	倫理学特論	1		2	
	宗教哲学特論	1		2	
	西洋思想特論	1		2	
教職に関する科目	障害児者心理学特論	1	2	2	
	発達心理学特論	1			
	教育心理学特論	1		2	
	学校臨床心理学特論	1		2	
	教育人類学特論	1		2	
	生徒指導・進路指導 (含実習)	1		2	
	教育評価・心理検査 (含実習)	1		2	

2. 臨床心理士受験資格 【臨床心理学専攻】

財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」の受験資格を得るためには、以下の条件をすべて満たすことが必要です。

- (1) (財) 日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院の修士課程を修了すること
- (2) 修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること
- (3) 指定された科目を 26 単位以上修得すること
- (4) 第 1 種指定大学院修了者は、心理臨床経験は問われない

(第 2 種指定大学院修了者は、修了後 1 年以上の心理臨床経験があること)

福岡女学院大学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻は第 1 種指定大学院として指定を受けています。

財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士受験資格に関する科目表

協会指定科目	単位	本学大学院開講科目	履修年次	単位		備考
				必	選	
必修科目	臨床心理学特論	臨床心理学特論Ⅰ	1	2		16 単位 必修
		臨床心理学特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理面接特論	臨床心理面接特論Ⅰ	1	2		
		臨床心理面接特論Ⅱ	1	2		
	臨床心理査定演習	臨床心理査定演習Ⅰ	1	2		
臨床心理査定演習Ⅱ		1	2			
臨床心理基礎実習	2	臨床心理基礎実習	1	2		
臨床心理実習	2	臨床心理実習	2	2		
選択必修科目	[A 群]	心理学研究法特論	1		2	各群 (A ~ E) から 2 単位以上、 計 10 単位以上選 択必修
		心理統計法特論	1		2	
	[B 群]	発達心理学特論	1	2		
		人格心理学特論	1		2	
		教育心理学特論	1		2	
	[C 群]	社会心理学特論	1	2		
		集団力学特論	1		2	
		家族関係特論	1		2	
	[D 群]	障害児者心理学特論	1		2	
		精神医学特論	1		2	
臨床薬理学特論		1		2		
[E 群]	投影法特論	1		2		
	学校臨床心理学特論	1		2		
	コミュニティ・アプローチ特論	1		2		

3. 日本語教員【比較文化専攻】

日本語教員を希望する者は以下の授業科目の中から 24 単位以上を履修すること。

日本語教員課程科目表

	領域	区分		必要 単位数	本学の授業科目	履修 年次	単位数		
							必修	選択	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	社会・文化・地域 に関わる 領域	社会・ 文化・ 地域	世界と日本 異文化接触 日本語の教育の 歴史と現状	4 以上	異文化交流特論	1	2		
					比較文化特殊研究Ⅰ	1		2	
						比較文化特殊研究Ⅱ	1		2
						比較文化特殊研究Ⅲ	1		2
						比較文化特殊研究Ⅳ	1		2
	教育に関 わる領域	言語と 社会	言語と社会の関係 言語使用と社会 異文化コミュニ ケーションと社会	4 以上	英語学特殊研究	1		4	
英語学研究Ⅰ					1		4		
英語学研究Ⅱ					1		2		
					言葉とコミュニケーション研究	1		2	
	言語に関 する領域	言語と 心理	言語理解の過程 言語習得・発達 異文化理解と心理	2 以上	教育心理学特論【臨床心理学専攻配当科目】	1		2	
社会心理学特論【臨床心理学専攻配当科目】					1		2		
発達心理学特論【臨床心理学専攻配当科目】					1		2		
					日本語学特殊研究Ⅰ（日本語教育）	1	2		
					日本語学特殊研究Ⅱ（日本語教育）	1	2		
					*日本語教授法演習Ⅰ	—	2		
					*日本語教授法演習Ⅱ	—	2		
					日本語学研究Ⅰ	1	4		
					日本語学研究Ⅱ	1	2		
	3 領域	5 区分		24 単位	18 科目		—	—	

文化庁平成 12 年 3 月「日本語教員養成において必要とされる教育内容」に準ずる。

*日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱは人文学部にて履修すること

2004 年度入学生から適用する

IV. 授 業 内 容

1. 比較文化専攻授業内容

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
キリスト教と人間	必修	1	後期	2	講義	中川 憲次

【履修条件】

【教育目標】

たとえば、死別などで愛する存在を失って悲嘆（グリーフ）にくれる人に対してどのようなケアをすればよいのかを考える、いわゆるグリーフケアについて理解を深めていただく。

【内容】

まず、ボエーティウス著『哲学の慰め』とマイスター・エックハルト著『神の慰めの書』をグリーフケアの観点から講義する。次に、現代のグリーフケアをめぐる著作等を取り上げて講義する。その際、キリスト教の価値観がグリーフケアにどれだけ有効であるかを探る。

【授業の進め方】

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅲ |
| 2 「マイスター・エックハルトにとっての悪」Ⅰ | 10 『哲学の慰め』と『神の慰めの書』の比較 |
| 3 「マイスター・エックハルトにとっての悪」Ⅱ | 11 現代のエピソードⅠ |
| 4 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅰ | 12 現代のエピソードⅡ |
| 5 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅱ | 13 高橋克樹氏の研究発表をめぐってⅠ |
| 6 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅲ | 14 高橋克樹氏の研究発表をめぐってⅡ |
| 7 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅰ | 15 まとめ |
| 8 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅱ | |

【文献】

テキスト：毎回プリントを配布する。

参考文献：講義中に適宜紹介する。

【成績評価】

毎回の討論参加度 80%

出席（授業態度等） 20%

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
異文化交流特論	必修	1	前期	2	講義	丸山 孝一

【履修条件】

本講は比較文化専攻の必修科目であり、臨床心理学専攻の選択科目である。

【教育目標】

今や国際交流が日常化し、海外との情報流通がわれわれの生活にとって身近なものとなってきたが、それだけに外国文化を正當に評価し、また外国人に私たちの生き方、価値観をよりよく理解してもらうことが課題となってきている。本講では、社会通念としての「文化」の概念を根本から再検討し、これから国際交流の中に進出して行くための基本的な知識と態度と方法論を考える。

【内容】

1. 文化概念の基本を考える。
2. 文化に関する先行研究の再検討。
3. 民族間関係の調和と緊張：特に少数民族の生き方に学ぶものは何か
4. 具体的現地調査の資料から考える：中国、韓国、アメリカ、タイなど。
5. 他者（個人、民族、国家レベル）との関係及び共存のあり方、特に文化相対論を再考する。

【授業の進め方】

1. はじめに
2. 文化とは何か：価値概念と記述概念
3. 時系列から見た文化：「文化遺産」の本当の意味
4. 文化に関する教育の問題：子どもをどうするか
5. 異文化とは？：空間としての文化
6. 文化の伝播とは何か
7. 文化の自足性、自律性と相対性：文化の相対性とは何か
8. 文化の境界性について
9. 越境する文化

10. 文化の力学とは何か
11. 文化の関係：接触・摩擦・衝突・調和のプロセス
12. 少数民族の生き方（1）：ウイグル族、シボ族
13. 少数民族の生き方（2）：南タイのマレー人
14. 少数民族の生き方（3）：日系アメリカ人
15. 結語：文化の普遍性と特殊性

【文献】

丸山孝一「周縁文化の視座：民族関係のダイナミックス」九州大学出版会、2010年

【成績評価】

1. 非定期的レポートと期末レポート
2. 平素の成績
3. 出席状況

【お知らせ】

学生との個別面接に応じるが、事前の予約を必要とする。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本語学研究Ⅰ	選択	1	前期	4	演習	栗山 昌子 中村 萬里

【履修条件】

オムニバス方式

【教育目標】

日常使用している言葉に対する意識化を図り、日本語を外国語として客観的に捉える態度を養う。その上で、実際のコミュニケーションの見地から、現在の日本語教育文法における言葉の機能について考える。（栗山昌子）

日本語学とは、一体、日本語のどのような問題を、どのような方法で研究しようとしている学問なのか。私たちの生活に密着し、日本文化の基盤をなす日本語を再考する。（中村萬里）

【内容】

日本語学習者の立場から現行の日本語教育文法を再検討する。コミュニケーションが行われている個々の場面を取り上げ、実際に円滑なコミュニケーションを行う上での学習者のニーズと日本語教育文法との関連を考察する。（栗山昌子）

そもそも日本語学とは何かについての基本的な理解を得ることを意図する。その際、日本語を共時的・通時的にみることによってその理解を深める。（中村萬里）

【授業の進め方】

最初の4回は①授業の概要②受講生の言語教育の意識化③日本語テキストの中で日本語教育文法がどのように取り扱われ方について話し合い、各自の希望担当項目を決める。その後、それぞれの担当項目について各自が調査を行い、発表をする。日本語使用の実態を把握した上で、現行の日本語教育文法がどのように現場で生かされているかディスカッションを行い、現行の日本語教育文法の再検討をする。（栗山昌子）

授業は演習形式で進める。テキストの担当箇所を各自が纏め、各自の意見を発表する。また、発表後、全員でディスカッションを行う。（中村萬里）

【文献】

テキスト：『日本語教育文法』 野田尚史編 2005 くろしお出版 （栗山）

テキスト：『国語学原論』（上）（下） 時枝誠記 岩波書店 （中村）

【成績評価】

口頭発表、小論文、コメント、授業への積極的参加度の総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本語学研究Ⅱ	選択	1	前期	2	演習	日野 資成

【履修条件】

大学院人文科学研究科比較文化専攻の学生。

【教育目標】

日本語を世界の言語と比較することにより、その特質を明らかにする。

【内容】

『ベーシック現代の日本語学』をテキストに使い、世界の諸言語と比較することによって日本語の特質を検討する。最後の1時間は受講者の発表の時間とする。

【授業の進め方】

おおむね、以下のように進める。途中小テストを実施する。

- 1 はじめに。若者ことば・慣用表現。
- 2 『現代の日本語学』第1章「はじめに」1
- 3 第1章「はじめに」2

- 4 第3章「音韻論」 1
- 5 第3章「語用論」 2
- 6 第4章「文字」 1
- 7 第4章「文字」 2
- 8 第5章「意味論」 1
- 9 第5章「意味論」 2
- 10 第6章「語用論」 1
- 11 第6章「語用論」 2
- 12 第10章「ことばの変化」 1
- 13 第10章「ことばの変化」 2
- 14 まとめ。
- 15 口頭発表。

【文献】

テキスト 『ベーシック現代の日本語学』 日野資成 2009年 ひつじ書房
 参考文献 O'Grady et al. eds. *Contemporary Linguistics*. 1997. St. Martin's Press.
 Yule George. 2006. *The Study of Language*, Third Edition. Cambridge: Cambridge University Press.

【成績評価】

レポート50% 発表20% 授業参加ならびに出席30%

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語学研究 I	選択	1	前期 (前集)	4	演習	山崎 和夫 志水 俊広

【履修条件】

オムニバス形式の授業となるので、志水、山崎両教員を同時に履修登録すること。

【教育目標】

(山崎) “情報”を基に言語現象を分析した「情報の縄張り論」と「機能論」から日英語の差異を観察していく。機能論での枠組みを把握し、これまでの形式的統語理論からの説明との違いを理解することを目標とする。また、これらの観察に基づくコミュニケーションギャップにも目を向けていく。

(志水) 日本人による英語の音韻・語彙・文法・語用論などの習得を概観し、外国語学習および第二言語習得についての基礎知識を得るとともに、外国語および第二言語としての英語の習得についての理解を深める。

【内容】

(山崎) 統語現象、ここでは後置文、受け身文、視点、再帰代名詞、などでの事象を取り上げ、日英語とも情報量の「小→大」同じ制約から説明できること。また、誰の情報かという観点から日英語の文末表現のちがいを浮き彫りにし、コミュニケーションの差異にも言及する。

(志水) 外国語または第二言語としての英語を学習者がいかに習得していくのかを、音韻論・形態論・統語論・語用論・社会言語学・心理言語学などさまざまな視点から研究する。さらに、日本語と英語を比較しつつ、日本人による英語学習の問題点を探る。

【授業の進め方】

(山崎)

- 第 1回 コースワークの解説
- 第 2回 縄張り理論とは
- 第 3回 日本語における縄張り理論
- 第 4回 英語における縄張り理論
- 第 5回 縄張り理論の言語現象への適応と分析
- 第 6回 日英語における省略現象
- 第 7回 日英語における後置文
- 第 8回 日英語における数量詞遊離
- 第 9回 英語における受身構文
- 第10回 日本語における受け身文
- 第11回 日英語の構造的差異に基づくコミュニケーション・ギャップ
- 第12回 日英語の認知的差異に基づくコミュニケーション・ギャップ
- 第13回 日英語の情報構造に基づくコミュニケーション・ギャップ
- 第14回 談話における規則性
- 第15回 まとめ

(志水)

- 第 1回 第二言語習得論とは何か
- 第 2回 母語習得と外国語習得
- 第 3回 臨界期仮説
- 第 4回 個人差と動機づけ
- 第 5回 外国語学習のメカニズム

- 第 6回 第二言語習得論の応用
- 第 7回 効果的な外国語学習法
- 第 8回 母語習得再考
- 第 9回 習得順序と外国語学習
- 第10回 学習者の誤り
- 第11回 学習者要因
- 第12回 臨界期仮説再考
- 第13回 脳科学からのアプローチ
- 第14回 俗説と科学研究
- 第15回 まとめ

【文献】

(山崎) 神尾昭雄『情報の縄張り理論』大修館書店
 高見健一『機能論に基づく日英語比較』くろしお出版
 (志水) 白井恭弘(著)『外国語学習の科学』岩波書店
 白畑知彦(編著)『英語習得の「常識」「非常識』大修館書店

【成績評価】

(山崎) レポート、40% 授業への参加・授業での発表、60%
 (志水) 授業中の発表および期末レポート(または期末試験)を総合的に評価する。

【お知らせ】

※各自添付ファイルで送受信可能なメールアドレスを取得しておくこと。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語学研究Ⅱ	選択	1	後期	2	演習	山崎 和夫

【履修条件】

【教育目標】

語用論での理論、グライス、オースティンなどの理論、さらに関連性理論を踏まえた上で、最近のこの研究領域でのポライトネス理論を把握すること、また、岡本などの観察をもとに、実践的な調査を基にした日英語のポライトネスの差異を考察し、記述できることを目標とする。

【内容】

語用論とは、実際の発話が「文字通りに解釈されない」で含まれた意味を持つのはなぜか、またどのような過程でその解釈が可能になるのか、といった問題を扱うものである。この理論での発話行為論、会話の原理、などを実践的な形で把握した上で、ポライトネスの枠組みを理解し、日英語のポライトネスの相違を把握していく。

【授業の進め方】

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 第 1回 コースワークの解説 | 第10回 要求表現における分類、談話の展開 |
| 第 2回 グライスの理論、会話の協調の原則 | 第11回 Brown & Levinson の問題点 |
| 第 3回 Austin、Searle の理論 | 第12回 対人配慮の諸相(1) 感謝とねぎらいの表現 |
| 第 4回 関連性理論の概要 | 第13回 対人配慮の諸相(2) ポライトネスの文化差 |
| 第 5回 会話の基本構造 | 第14回 ことばの性差 |
| 第 6回 指示的コミュニケーション | 第15回 まとめ |
| 第 7回 ポライトネスの理論 | |
| 第 8回 人の呼び方とポライトネス | |
| 第 9回 敬語とポライトネス | |

【文献】

プリントとして配付する
 岡本真一郎『ことばの社会心理学』[第3版] ナカニシヤ出版
 荒木・天野(監修)『英語学入門講座第11巻 語用論』英潮社

【成績評価】

レポート、40% 授業への参加・授業での発表、60%

【お知らせ】

レポート提出(期末レポートを含む)はメールで行います。添付ファイルで送受信可能なメールアドレスを取得しておくこと。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
言葉とコミュニケーション研究	選択	1	後期	2	演習	日野 資成

【履修条件】

大学院人文科学研究科比較文化専攻の学生。

【教育目標】

ことばがコミュニケーションに果たす役割について考える。

【内容】

コミュニケーションにかかわるテーマとして、脳とことば、幼児の言語習得、動物のコミュニケーション、異文化コミュニケーションなどを扱う。

【授業の進め方】

ビデオや資料を使って、コミュニケーションの諸相についてディスカッションする。最後に口頭発表を行う。

- 1 はじめに。自己紹介。アンケート。ビデオ「相手を理解する」
- 2 ビデオ「コミュニケーションの丁寧さ」
- 3 脳とことば①。ビデオ「脳とことば」
- 4 脳とことば②。ポティワールド。
- 5 幼児のことば①。ビデオ「言語の発達」(アメリカの幼児)
- 6 幼児のことば②。ビデオ「言語表現の発達」(日本の幼児)
- 7 幼児のことば③。データ分析。
- 8 動物のことば①。ビデオ「鳥や獣のことば」
- 9 動物のことば②。論文「動物のあいさつ行動」
- 10 非言語コミュニケーション①。ビデオ「ノンバーバル行動」
- 11 非言語コミュニケーション②。論文「日米における非言語コミュニケーション」
- 12 異文化コミュニケーション①。ビデオ「文化的背景のちがいがい」
- 13 異文化コミュニケーション②。日米の文化比較。
- 14 異文化コミュニケーション③。国際適応力チェック。
- 15 口頭発表。

【文献】

教科書『ベーシック現代の日本語学』

放送大学ビデオ教材「ことばとコミュニケーション」

参考文献

『こどものことば』 伊藤克敏 1990年 頤草書房

O'Grady et al. eds. *Contemporary Linguistics*. 1997. New York: St Martin's Press. その他

【成績評価】

小論文50% 口頭発表20% 授業参加ならびに出席30%

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
比較文化特殊研究 I (東アジアと英語圏文学)	選択	1	前期	2	演習	飯田 武郎

【履修条件】

イギリス文学に対して興味や関心があること。イギリス文学史を学部時代に履修しておくことが望ましい。

【教育目標】

日本語を母国語とする日本人が日本において英語圏文学を研究するというにはどのような意味があるのだろうか。その問題を水村美苗、夏目漱石、Lafcadio Hearn、司馬遼太郎などの作品によって考える。

【内容】

水村美苗『日本語が減びるときー英語の世紀のなかで』を読むことによって、英語が「普通語」となった現在、日本語をどのように捉えるべきか、また英語圏文学は日本人にとってどのような意味をもつかを考える。さらに同氏のアメリカを舞台とした『私小説 From left to right』によって英語と日本語の狭間で葛藤する二人の日本人姉妹の言語上の問題を日本人の問題としてどのように考えるべきか。また、夏目漱石の小説『三四郎』(又はその英訳 *Sanshiro*) によって日本人が西洋の衝撃をどのように受け止め、それにどのように対処したかを探り、又、同じ問題が司馬遼太郎『坂の上の雲』ではどのように取り上げられているかについて考える。L.Hearn は日本文化をどのように理解しそれを英語圏に発信したことがどのような意味をもつかを *Kokoro* によって探る。

【授業の進め方】

1. 水村美苗『日本語が減びるときー英語の世紀のなかで』と『私小説 From left to right』によって「英語の世紀」における日本語と英語の位置について議論する。
2. 夏目漱石の『三四郎』(英訳 *Sanshiro*) によって日本人にとっての西洋の衝撃の受け止め方について、さらにまた、東アジアに対する西洋の衝撃とはどのようなものであったかについても議論する。司馬遼太郎『坂の上の雲』もその関連で取り上げる。
3. L.Hearn の *Kokoro* によって Hearn の日本理解の深さと英語による発信の意味について議論する。

【文献】

水村美苗『日本語が減びるときー英語の世紀のなかで』 筑摩書房、2008年。

水村美苗『私小説 From left to right』 新潮社、1995年。

夏目漱石『三四郎』 岩波文庫 1986年。(*Sanshiro* Perigee Trade, 1982)

L.Hearn, *Kokoro* Charles E.Tuttle,1972

【成績評価】

毎回の発表と学期末のレポートによって評価する。試験はしない。出席重視、理由なく欠席すれば減点。

【お知らせ】

参考文献として次のものを勧めたい。

L. Hearn *Japan: an Attempt at Interpretation* Tuttle, 1972

夏目漱石『漱石文明論集』岩波文庫、1986年。

水村美苗『本格小説』新潮文庫、平成17年。

S.ハッチントン（鈴木訳）『文明の衝突』集英社、1998年。

S.ハッチントン（鈴木訳）『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書、2000年。

鈴木孝夫『閉ざされた言語・日本語の世界』新潮社、昭和50年。

鈴木大拙『禅と日本文化』岩波新書、1980年。

司馬遼太郎『坂の上の雲』1～8巻、文春文庫、1990年

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
比較文化特殊研究Ⅱ（東アジアの思想）	選択	1	前期	2	講義	難波 征男

【履修条件】

【教育目標】

東アジア地域の新儒教（朱子学・陽明学）の歴史とその現代的意義を考察する。

【内容】

新儒教は、中国では「宋明理学」と呼ばれている。宋代に成立した朱子学（宋学）と、その朱子学的人間観を批判して新しい人間観を提起した陽明学（明学）のことである。本講義では、朱子学や陽明学の東アジア（中国・朝鮮半島・日本）における思想的淵源・成立・展開・現代的意義を考察する。

【授業の進め方】

- | | |
|------------------|------------------------|
| ① 孔孟の儒教と新儒教 | ⑨ 大塚退野の熊本実学 |
| ② 朱子学の成立過程 | ⑩ 山崎闇斎の朱子学 |
| ③ 朱子学の人間観と実践論 | ⑪ 幕末維新期の朱子学・陽明学 |
| ④ 王陽明の朱子学批判 | ⑫ 現代新儒家 |
| ⑤ 明末清初の新儒教 | ⑬ 21世紀の中国哲学・和合学 |
| ⑥ 陽明後学の展開 | ⑭ 朱子学者・陽明学者の書院教育の歴史と特徴 |
| ⑦ 朝鮮朱子学・李退溪思想の特徴 | ⑮ 現代書院教育 |
| ⑧ 江戸朱子学の勃興 | |

【文献】

独自資料を配布する

【成績評価】

レポート提出

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
比較文化特殊研究Ⅲ（東アジアと日本古代文学）	選択	1	前期	2	演習	東 茂美

【履修条件】

【教育目標】

ここでは、日本古代文学ことに『万葉集』を、環日本海を視野にしながら、日本文学史の上に位置づける試みを学習の目的とする。

【内容】

『万葉集』といえば、日本最古の歌集といわれ、日本人の心の音楽だと称賛され、明治以降国民の歌集として位置づけられてきた。なるほど8世紀という古い時代の和歌がまとめられているという点では、日本の伝統文化を語る歌集であることには違いないが、だからといって「やまとごころ」（国粹）をうたいあげた歌集だといっているのは時代錯誤だ。日本という島に閉ざされた歌集ではなく、もっと東アジア的であり海彼性に富んだ歌集だからである。

『詩経』『玉台新詠』『文選』『楽府詩集』等との事例比較を試みながら、山上憶良の作品を具体的に組上に、『万葉集』を東アジアの文学として位置づけてみよう。

【授業の進め方】

授業は講義形式で進める。すでに購入済みのビデオ等も活用したい。

第1講義～第4講義 万葉集の基礎知識

万葉集を学ぶ上での、もっとも基本的な知識を学習する。万葉集とはどんな歌集か・いつ頃成立したのか・纏めたのは

誰か・万葉仮名の表記の特徴とは何か・時代区分と各時代の特色・天平万葉の歌人たちとは、など。

第5講義～第7講義

山上憶良の生涯と作品

山上憶良の渡来人説・作品の特徴

第8講義～第13講義

山上憶良の作品の海彼性を析出してみよう。

貧しさをうたうことの意味 陶淵明の作品との比較

なぜ歌をうたうのか 白楽天の作品との比較

第14講義～第15講義

山上憶良の「好去好来歌」にみる環日本海文化性

【文献】

とりたてて事前に購入を要するテキストはない。講義で使用する資料は、その都度配布する。参考文献は講義の際に提示し紹介する。

【成績評価】

講義終了後の提出レポートによる。レポート作成要領は授業の中で説明する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
比較文化特殊研究Ⅳ（日本近代文学と西欧文化）	選択	1	前期	2	演習	西野 常夫

【履修条件】

ドストエフスキ『罪と罰』を毎回持参すること。どの版でもよいが、新たに購入する場合は、岩波文庫3冊本を薦める。できれば5月末までにこの長い小説を読了してほしい。この小説と日本近代文学とのつながりを見るのが授業の眼目である。

【教育目標】

日本近代文学の形成を特に外国文学の影響という観点から考察する。今回はその例として、ロシアの作家ドストエフスキを取り上げる。作家というものは自分の作品のモチーフやテーマとなるものがどこかにないかと、絶えず探しているものである。作家たちのインスピレーションの源泉として明治時代以来、西洋の作品が盛んに選ばれてきた。そうした事情を、実例を通して理解すること。

【内容】

まず、ドストエフスキと、この作家の最も有名な小説『罪と罰』について解説する。次に、なんらかの点でこの作家とつながりのある日本の近代作家を取り上げ、関係する作品などを検討する。ドストエフスキが日本の作家にどのような影響を与えているか、『罪と罰』が日本の文学作品の中でどのように「生まれ変わっているか」というようなことについて、考察したい。『罪と罰』以外では、『カラマーゾフの兄弟』などについても言及する。

【授業の進め方】

次のようなテーマあるいは作品を取り上げながら、比較文学的な考察を進める。

- 1、ドストエフスキの生涯について。
- 2、ドストエフスキと革命思想について。
- 3、『罪と罰』について。
- 4、主人公ラスコーリニコフの思想について。
- 5、ヒロインであるソーニャの物語における役割について。
- 6、ラスコーリニコフのシベリア流刑について。
- 7、夏目漱石の『思い出す事など』。
- 8、夏目漱石の「修善寺の大患」について。
- 9、芥川龍之介の『歯車』。
- 10、萩原朔太郎の詩「竹」など2、3編。
- 11、武田泰淳『蝮のすえ』。
- 12、『カラマーゾフの兄弟』について。
- 13、ゾシマ長老について。
- 14、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』。

【文献】

教科書：『罪と罰』（どの版でもよい。毎回持参のこと）。授業で使うその他の資料はプリントで配布する。参考書は、松本健一『ドストエフスキと日本人』（朝日新聞社、1975年）、木下豊房『近代日本文学とドストエフスキ』（成文社、1993年）など。

【成績評価】

出席、また授業への参加の態度などと、学期末の筆記試験によって成績を評価する。

【お知らせ】

『罪と罰』は長い小説であるが、世界中の文学に甚大な影響を及ぼした重要な作品なので、根気よく通読してもらいたい。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
比較文化特殊研究Ⅴ（表象文化としての演劇）	選択	1	前期	2	演習	岩井 眞實

【履修条件】

【教育目標】

演劇が芸術・文学あるいはメディアの中でどのような位置を占め、どのような制約と可能性のもとに成立するのかということについて考察する。併せて、演劇をとりまく環境・文化的背景といった問題について、古今東西の演劇を比較しつつ考える。

【内容】

まず演劇の歴史と理論について学ぶ。次に、古今東西の作品を適宜参照しながら、演劇をめぐる様々な諸問題について考察する。直接の研究対象は演劇だが、当然映画やテレビドラマといったメディアも視野に入れる。

【授業の進め方】

授業は下記の計画で行う。受講者は教師の指定する相当数の戯曲を読破しなければならないのでそのつもりでいてほしい。

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. ガイダンス | 9. プロットとストーリー |
| 2. 演劇の諸要素 | 10. 演劇と時間 |
| 3. 戯曲の制約と主体性 | 11. 俳優とは |
| 4. 日本演劇史概略1 | 12. 心と型 |
| 5. 日本演劇史概略2 | 13. 同化と異化 |
| 6. 世界演劇史概略1 | 14. 演劇をとりまく環境 |
| 7. 世界演劇史概略2 | 15. まとめ |
| 8. ドラマツルギーの双極性（古典主義とバロック） | |

【文献】

教科書：河竹登志夫『演劇概論』東京大学出版会

【成績評価】

平常点とりポートによって評価する

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
比較文化特殊研究Ⅵ（近代演劇の成立）	選択	1	後期	2	演習	岩井 眞實

【履修条件】**【教育目標】**

近世（江戸時代）から近代（明治時代）に至る歌舞伎作品を読むことによって、演劇における近代とは何かという問題について研究する。

【内容】

河竹黙阿弥の歌舞伎作品を読む。幕末から明治にかけて活躍した歌舞伎狂言作者黙阿弥は「江戸演劇の大問屋」と言われるように、江戸時代の歌舞伎のあらゆる技法を駆使して台本を執筆した。

しかし明治維新による急激な社会の変化の中で、黙阿弥の執筆態度は、当代風俗への対応と江戸への懐古といった両方向に引き裂かれていく。授業では明治期の黙阿弥作品数点を読みながら、日本の「近代」がどのように成立したかについて考える。作品は「河内山」と「女書生」を予定している。教材として活字本のコピーと台本の転写本を用いる。

【授業の進め方】

- | | |
|--------------|------------|
| 1. ガイダンス | 9. 「河内山」5 |
| 2. 歌舞伎の歴史 | 10. 「女書生」1 |
| 3. 歌舞伎の技法 | 11. 「女書生」2 |
| 4. 歌舞伎狂言作者とは | 12. 「女書生」3 |
| 5. 「河内山」1 | 13. 「女書生」4 |
| 6. 「河内山」2 | 14. 「女書生」5 |
| 7. 「河内山」3 | 15. まとめ |
| 8. 「河内山」4 | |

【文献】

コピーを配布する。

【成績評価】

平常点とりポートによって評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
比較文化特殊研究Ⅶ（国語教育論）	選択	1	前期	2	演習	東 茂美

【履修条件】**【教育目標】**

ここでは、将来、中学校・高等学校で国語教育を実践するための理論を明らかにしながら、教育現場の理論的な把握力をつちかうとともに、それを具体的な授業の展開に生かす実践力を身につけることを、学習のねらいとしている。

【内容】

2003年7月に実施されたPISAの結果、日本の高校生の「読解力」が2000年時の調査よりも大きく低下していることが明らかとなった。このPISAで問題になった「読解力」はたんに従来の国語科教育で用いられていた「読解力」よりも広義で、

主体的学習力、どちらかといえば機能的・実用的な性格が強いものだっただけに、現場のさまざまな問題を反映した現象として深刻にうけとめられ、現在に至っている。近年のPISAでは幸いや好転したが、読めない・書けない・聞けない・話せないという、ほとんど基本的とも言うべき国語力の低下はそう簡単に解消されるわけではないだろう。

ここでは「PISA型読解力」の理論からはじめ、現場の実践として応用・実践できるように、授業全体を組み立てた。

【授業の進め方】

授業は講義形式で進めるが、学習指導要領（小学校国語・中学校国語・高等学校国語）の各学年の内容とも呼応させながら、進めることになる。

- 第1時間目 「PISA読解力」への基本的な視座
- 第2時間目 PISA調査の結果を現場からの視点でどうみるか
- 第3時間目 PISA調査への諸言説の問題提起
- 第4時間目 PISA調査からみた国語教科書の検討
- 第5時間目 国語学習と総合的学習の展開
- 第6時間目 PISA型読解力を高めるための国語科授業のあり方1
- 第7時間目 PISA型読解力を高めるための国語科授業のあり方2
- 第8時間目 PISA型読解力を高めるための国語科授業のあり方3
- 第9時間目 PISA型読解力からの展開 読む・書く・話す（その1）
- 第10時間目 教科間の連携と協力はどうか1
- 第11時間目 教科間の連携と協力はどうか2
- 第12時間目 脱PISA型読解力への構想1
- 第13時間目 脱PISA型読解力への構想2
- 第14・15時間目 今なぜPISA型読解力が必要とされるのか—まとめにかえて—

【文献】

とりたてて事前に購入を要するテキストはない。講義で使用する資料は、その都度配布する。参考文献は講義の際に提示し紹介する。

【成績評価】

筆記試験および提出レポートの内容による。

【お知らせ】

学習の内容の性格上、出席はかなりきびしく要求する。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
比較文化特殊研究Ⅷ（国語教材論）	選択	1	後期	2	演習	東 茂美

【履修条件】

【教育目標】

ここでは、具体的な教科書教材を分析しながら、将来、中学校・高等学校で国語教育を実践するための即戦力をつちかうことを学習のねらいとしている。

【内容】

2003年7月に実施されたPISAの結果、日本の高校生の「読解力」が2000年時の調査よりも大きく低下していることが明らかとなった。このPISAで問題になった「読解力」はたんに従来の国語科教育で用いられていた「読解力」よりも広義で、主体的学習力、どちらかといえば機能的・実用的な性格が強いものだっただけに、現場のさまざまな問題を反映した現象として深刻にうけとめられ、現在に至っている。近年のPISAでは幸いや好転したが、読めない・書けない・聞けない・話せないという、ほとんど基本的とも言うべき国語力の低下はそう簡単に解消されるわけではないだろう。

ここでは、教科書教材を取り扱いながら、「PISA型読解力」を中心とする国語教育の展開を模擬的に実施する。

【授業の進め方】

授業は、全体でおこなう教材研究とひとりひとりのレポート報告による。

- 第1時間目 小学校でPISA型授業をどのように展開するか1
- 第2時間目 小学校でPISA型授業をどのように展開するか2
- 第3時間目 小学校でPISA型授業をどのように展開するか3
- 第4時間目 中学校でPISA型授業をどのように展開するか1
- 第5時間目 中学校でPISA型授業をどのように展開するか2
- 第6時間目 高等学校でPISA型授業をどのように展開するか1
- 第7時間目 高等学校でPISA型授業をどのように展開するか2
- 第8時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て1
- 第9時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て2
- 第10時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て3
- 第11時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て4
- 第12時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て5
- 第13時間目 具体的な教科書教材の分析とPISA型読解力の授業組み立て6
- 第14・15時間目 まとめ

【文献】

とりたてて事前に購入を要するテキストはない。授業で使用する教科書はできるだけ図書館蔵の教科書を利用するが、あらたな購入も予定している。

【成績評価】

筆記試験および演習発表の内容による。

【お知らせ】

学習の内容の性格上、出席はかなりきびしく要求する。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本古典文学特殊研究	選択	1	前期	2	演習	金原 理

【履修条件】

【教育目標】

日本漢詩を読む。高校の漢文の授業で杜甫や李白の詩の一部を読んだと思うが、この授業では、読む対象は日本人の作った漢詩だが、高校で習ったように訓読で読む。訓読はどうやったらよいのか、その基礎から取り扱う。

【内容】

教科書はテキストの一部を複写して使う。最初は訓読のやり方についての導入を自作のプリントで行い、少し慣れたら、注釈などのない『扶桑集』を読む。

【授業の進め方】

この授業は演習なので、あてられた場合には、必ず予習をして授業に参加すること。

【文献】

教科書：テキストの一部を複写して使う。

【成績評価】

レポート。発表、出席点を加味する。

【お知らせ】

授業に欠席しないこと。欠席すると授業について行けなくなる場合があるので。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本近代文学特殊研究	選択	1	後期	2	演習	井上 洋子

【履修条件】

【教育目標】

明治期の大衆小説を読んで以下の諸点を理解する。①近代以前の書籍の形態を知る。②近代における書籍の流通の拡大過程を知る。③変体仮名を読解する。④近代大衆小説の一ジャンルとしての推理小説の形成過程を理解する。⑤講談、落語と近代小説の関係を理解する。⑥「指紋」をめぐる文化史を理解する。⑦類似した大正期の小説と比較することによって、時代思潮の変化を理解する。

【内容】

井上洋子編『二つの指紋小説—『幻燈』と『指紋』』をテキストとして、明治と大正の異なる「指紋」小説を、講義と演習によって読み進める。適宜、和装本や明治期の縮緬本、ボール紙本と現代の書籍とを比較する。

【授業の進め方】

- ① ガイダンス（テキスト・参考文献等）
- ② 和装本と洋装本—印刷・製紙・流通
- ③ 実物で確認しよう—明治本の諸形態
- ④ 寄席芸人としての快樂亭ブラック
- ⑤ 演習—ブラック『幻燈』（3回予定）
- ⑥ 指紋をめぐる文化史
- ⑦ 演習—佐藤春夫『指紋』（2回予定）
- ⑧ 方法としての幻燈・映画
- ⑨ まとめ—明治のミステリー、大正のミステリー

【文献】

中島河太郎『日本推理小説史（1～3）』（東京創元社）
 イアン・マッカーサー『快樂亭ブラック』（講談社）
 ド・クインシー『阿片常用者の告白』（岩波文庫）・『佐藤春夫全集』（臨川書店）

【成績評価】

演習及びレポートによって評価する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本文学総合演習	選択	1	後期	4	演習	東 茂美 西野 常夫

【履修条件】

西野・東の両講義を同時に履修すること。一方だけの履修は許可されないし修得単位としても認められないので留意すること。

と。

【教育目標】

「日本文学総合演習」は古典と近・現代の日本文学を、さまざまな研究方法を用いて明らかにすることを学習の目的とするが、授業者の研究方法はかならずしも一致したものではなく、むしろその異なりが学習者の研究方法の模索に寄与するようにはかられている。

近・現代分野では、大正時代から昭和初期の主に大都市（東京）などを舞台とした日本のいわゆるモダニズム文学を読み、関東大震災前後の都市文化の様相、当時の人々の暮らしや風俗、プロレタリア文学などに反映される階級闘争、といったさまざまな側面から考察を加え、文学作品にはそれが書かれた時代の問題意識が如実に反映していることを理解することを、学習の目標とする。

古典分野では、『源氏物語』と中国文学との比較研究を通して、『文選』『白氏文集』『史記』といった中国文献の知識が基層となっていた平安朝宮廷の読者たちがいったいどのようにして『源氏物語』を読み理解していたか、そしてそれが『源氏物語』を単一の文学作品として読んでいる現代の読者とどう異なっているのかを明らかにするのを、学習のねらいとしている。具体的には光源氏が宮廷を追われるように下っていく「須磨」、名誉回復をとげて帰京していく「明石」の巻を取り扱う予定。

【内容】

近・現代分野では、広い意味でこの時代のモダニズム文学に属すると考えられる短編小説を、どのようなモチーフやテーマが作品で取り上げられているかといった問題意識を持ちながら、読む。さらに、これらの作品についての既存の研究論文（作家論や作品論）などを紹介し、作品のどのような要素が論文のテーマに選ばれ、どのように論じられているかといったことについても考える。またモダニズム文学にふさわしい斬新な表現や、作品と外国文学・文化との関係についても検討する。

古典分野では、上記のように「須磨」「明石」の精読から始める。

【授業の進め方】

近・現代分野では、だいたい以下のような短編小説その他からいくつかを取り上げる。1 佐藤春夫「指紋」（大正7年）、2 前田河広一郎「三等船客」（大正10年）、3 谷崎潤一郎「青花」（大正11年）、4 吉屋信子「ヒヤシンス」（大正12年）、5 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」（大正15年）、6 芥川龍之介「歯車」（昭和2年）7 平林たえ子「投げすてよ！」（昭和2年）、8 佐多稲子「キャラメル工場から」（昭和3年）、9 堀辰雄「不器用な天使」（昭和4年）、10 夢野久作「卵」（昭和5年）、11 川端康成「水族館の踊子」（昭和5年）、12 吉行エイスケ「女百貨店」（昭和5年）、13 飯島正「燃えない人形」（昭和5年）、14 龍膽寺雄「魔子」（昭和6年）、15 武田麟太郎「日本三文オペラ」（昭和7年）、16 坂口安吾「群集の人」（昭和7年）、17 深尾須磨子「マダム・Xの春」（昭和9年）など。

古典分野では、「須磨」「明石」（青表紙本）

【文献】

教科書は使わず、作品のテキストは最初の授業時にコピーで配布する。参考書としては、海野弘ほか編『モダン都市文学』全10巻（平凡社、1986～91年）、海野弘『モダン都市東京 日本の一九二〇年代』（中公文庫、1988年）など。

【成績評価】

授業への積極的な参加の度合いと、レポートとを総合的に判断して成績評価を出す。

【お知らせ】

ふだんの独習・自習などにおいて、テキストの中でわからない表現がでてきたら、必ず国語辞書、古語辞典、その他、講義内容に関連する事典類で調べるといった学習態度を身につけること。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
漢文学特殊研究	選択	1	後期	2	演習	難波 征男

【履修条件】

比較文化特殊研究（東アジアの思想）を履修しておくこと。

【教育目標】

漢籍を解読する日本独自の漢文訓読法を習得する。

【内容】

朝鮮の朱子学者・李退溪著『自省録』の江戸期和刻本を訓読する。

【授業の進め方】

- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 『自省録』についての解説 | ⑨ 「答権生好文論楽山楽水」の訓読 |
| ② 『自省録』序の訓読 | ⑩ 「答権生好文論楽山楽水」の訓読 |
| ③ 「答南時甫」の訓読 | ⑪ 「答黄仲挙論白鹿洞規集解」の訓読 |
| ④ 「答南時甫」の訓読 | ⑫ 「答黄仲挙論白鹿洞規集解」の訓読 |
| ⑤ 「答鄭子中」の訓読 | ⑬ 「重答黄仲挙」の訓読 |
| ⑥ 「答鄭子中」の訓読 | ⑭ 「重答黄仲挙」の訓読 |
| ⑦ 「答鄭子中」の訓読 | ⑮ 「重答黄仲挙」の訓読 |
| ⑧ 「答鄭子中」の訓読 | |

【文献】

「自省録」（日本刻版『李退溪全集』李退溪研究会）

【成績評価】

- ① 訓読発表 ② 全文の書き下し文提出

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
古代文化特殊研究	選択	1	後期	2	演習	吉田 修作

【履修条件】

【教育目標】

文献の調査方法を学びながら日本の古代文化を研究する。

【内容】

古事記をテキストとし学生の興味に従ってテーマを設定して調査・研究する。

【授業の進め方】

1～3 古事記の概要説明

4～6 古事記講読

7～14 分担を決めて学生の発表

前半は授業担当者による講義形式、後半は学生の発表による演習形式で行う。

特に演習形式では活発な質疑応答が望まれる。

最終的に発表内容をレポートにまとめて提出する。

【文献】

テキスト 古事記（新編日本古典文学全集 小学館）

他の参考文献は授業中に提示する。

【成績評価】

発表（40％） レポート（50％） 質問などの授業参加度（10％）

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
民俗学特殊研究	選択	1	前期	2	演習	吉田 修作

【履修条件】

【教育目標】

文献・民俗資料の調査方法を学び民俗学的思考を研究する。

【内容】

折口信夫の著作を柳田国男などそれと比較しながら読む。内容は学生の興味によるが、今年度は「最古日本の女性生活の根底」などを取り上げる。

【授業の進め方】

1～3 折口信夫、柳田国男の概説

4～6 授業担当者による折口の著作の講読

7～14 学生の発表による折口の著作の講読

前半は授業担当者による講義が中心、後半は分担を決めての演習形式で、特に後半は活発な質疑応答が望まれる。最終的に発表内容をレポートにまとめて提出する。

【文献】

テキストは折口信夫『古代研究Ⅰ』（中公クラシックス）

その他の参考文献は授業中に提示する。

【成績評価】

発表（40％） レポート（50％） 質問などの授業参加度（10％）

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本語学特殊研究Ⅰ（日本語教育）	選択	1	前期	2	演習	守山 恵子

【履修条件】

【教育目標】

日本語教育分野の研究の方法や研究動向を知り、自らの研究に役立てる。

【内容】

日本語教育分野での語彙、文法、音声、文字などに関する論文を読み、理解を深める。同時に、研究の方法、論文の書き方などについても学ぶ。

【授業の進め方】

毎回1名が論文を選び、その論文についてレジュメを作って発表する。その後全員でディスカッションをする。発表者は前もって論文を全員に配布しておく。

レポートについては、授業で説明する。

【文献】

必要に応じて、関連する文献を紹介する。

【成績評価】

出席およびディスカッションへの参加度：30%、発表：40%、レポート：30%

【お知らせ】

日本語学研究Ⅰと同時受講が望ましい。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
日本語学特殊研究Ⅱ（日本語教育）	選択	1	後期	2	演習	栗山 昌子

【履修条件】**【教育目標】**

日本語教育の方法を理論面と実践面の両面から考察する。実際に使用されている主な日本語教育のテキストを分析、検討することにより、日本語文法構造の仕組みや日本語表現の特徴等の意識化を図る。

【内容】

学習者の多様化に伴い、日本語教育を取り巻く状況は著しく変化しており、それぞれの状況に対応できる教材の開発が望まれている。本研究では、日本語の基本的学習を終えた中級学習者対象のさまざまな教材を取り上げ、その内容の分析と比較検討を行い、教育活動に効果的な素材の吟味を行う。

初級学習者とは異なり、中級学習者の学習目標は多様であり、個別的な要望に対応することが望まれている。中級段階では文法・表現および機能語の習得だけではなく、円滑なコミュニケーションを行うための教材開発が特に必要とされている。最終的には、各自が学習者の自律的学習促進のための要望対応型の教材作成を試みる。

【授業の進め方】

授業前半では、市販の主な日本語教科書の中から種々の学習者に対応した教材の例を紹介する。その後受講生は各自、中級学習者のためのテキストの中から一冊を選び、各自が選んだテキストの目標、内容、各課の構成や問題点などを表示、分析し、発表する。その後、実際のコミュニケーションにおいて効果的な日本語教育が反映されているか否かを念頭におき、全員でテキストの検討を行う。質疑応答およびディスカッションをもって授業を進めて行く。

後半では、前半の授業でのテキストのコメントや検討事項を基にして、各自が教材作成を試み、自立学習支援のための中級教材の完成を目指す。

【文献】

随時提示する。

【成績評価】

テキストの分析の発表と作成教材の総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語学特殊研究	選択	1	後期	4	演習	上田 修 細川 博文

【履修条件】**【教育目標】**

文体論および英語教育学の観点からテキストを分析・研究する。テキストの組み立て、スタイル、著者の視点などに関する分析から、英語学習者へのリーディング指導法までを研究範囲とする。

【内容】

（オムニバス方式）

（上田修）

英語表現について教育的文体論の視点からの研究

英語表現について教育的文体論の観点から、実践を交えながら研究する。随時こちらで用意した教材をつかう。受講生自身の英語コミュニケーション能力の向上も一つの目標とするつもりである。授業は、80-90%英語によってなされる。

（細川博文）

読解および読解指導の研究

人はテキストをどのように理解するのであろうか。読解は語彙認識から始まり、文や文章、そしてテキスト全体の理解へいたるまで多くの情報処理で構成されている。この中には、一般知識やスキーマといった言語外知識や読者の推論も含まれ、それぞれが重要な役割を担っている。本講座では読解モデルを検証すると共に、英語教育の観点から効果的な読解指導は何かについて議論する。

【授業の進め方】

基本的に英語で授業を行う。それぞれの分野について背景知識を概論的に紹介した後、演習形式でディスカッションを通し

て問題点を掘り下げていく。背景知識の紹介に留まらず、批判的な分析力を育成する授業を目指す。英語学・英語教育学という一見異なる学問領域であるが、テキストの分析という点で接点があり、学際的な観点から両者を結びつける授業を行う。
(上田修)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. Introduction | 9. Theory 2-2 |
| 2. Theory 1-1 | 10. Text Reading 2-1 |
| 3. Theory 1-2 | 11. Text Reading 2-2 |
| 4. Text Reading 1-1 | 12. Discussion 2-1 |
| 5. Text Reading 1-2 | 13. Discussion 2-2 |
| 6. Discussion 1-1 | 14. Summary 1 |
| 7. Discussion 1-2 | 15. Summary 2 |
| 8. Theory 2-1 | |

(細川博文)

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. Introduction | 9. Reading in different languages 2 |
| 2. Reading theories 1 | 10. Main-idea comprehension |
| 3. Reading theories 2 | 11. Research paper 1 |
| 4. Reading theories 3 | 12. Research paper 2 |
| 5. Basic assumptions | 13. Research paper 3 |
| 6. Reading and comprehension | 14. Discussion 1 |
| 7. Reading and cognition | 15. Discussion 2 |
| 8. Reading in different languages 1 | |

【文献】

未定（詳細については、講義の中で紹介する）

【成績評価】

背景知識の理解、討論、分析、小論文などを総合的に評価する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語圏文学特殊研究Ⅰ（英語圏の比較文化と文学）	選択	1	前期	2	演習	廣田 稔

【履修条件】

【教育目標】

英文学比較文化的視野からの英国詩鑑賞とブロンテ姉妹研究

【内容】

英国の詩人の中から W. ワーズワス及びその他の詩作品を読む。取り上げる対象作品は、詩人の詩魂の形成史と見なされる『序曲』の中から適宜選択しつつ、詩人の主だった作品「ルーシー詩篇」とその他を読み、詩人が少年時代からその中で育った英国北部の湖水地方の自然が詩人に与えた影響力、詩人の人間愛に連なる作品世界の精神性等を考究する。

【授業の進め方】

講読及び演習形式で行う。ワーズワス及びその他の詩作を正しく読み解くことによって、詩に描かれる諸種の意味合いを象徴性、具象性の両面から読み解くことに努めつつ進みたい。比較文化という観点からワーズワスの詩及びブロンテの作品、特に『嵐が丘』に描かれる英国の自然と風景の描写に風土論的考察も可能と考える。文学作品の素地となる風土の意味合いを解明しつつ、一作一作を各章を追って丹念に細かく読みたい。

【文献】

参考書 『若きワーズワスー詩人の成長と遍歴』 等
教科書 プリント資料

【成績評価】

演習形式による毎回の読みの努力を評価する。

【お知らせ】

ワーズワス及びブロンテ姉妹に関する研究書は、海外文献を含め多く集めているので適宜示すことができる。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語圏文学特殊研究Ⅱ（アメリカ文学）	選択	1	後期	4	演習	池田 肇子 山本 博

【履修条件】

【教育目標】

アメリカの19、20世紀文学を研究する。南北戦争後の女性文学ならびに1920年代のナチュラリズムからモダニズムの移行期の文学を代表とする多民族・多文化主義的アメリカニズムを表現する文学を研究する。

【内容】（オムニバス形式）

(池田肇子) Louisa May Alcott の伝記をもとに父と娘の親子関係を考察する。従来 Alcott は *Little Women* において家庭小説、児童文学のジャンルで取り上げられてきたが、作品の底流に流れている新しい女性の生き方を探る姿勢は見逃せない。婦人参政権運動へとつながる作家固有のフェミニズムを読み取ることを試みる。

(山本博) フロンティアが消滅し、産業主義と都市化の波が押し寄せた19世紀末から、ジャズエイジと呼ばれた繁栄の1920年代を経て、経済に破綻をきたし深刻な不況に陥った1930年代にかけてのアメリカ小説を扱う。激動のこの時代は、文学思潮的にもナチュラリズムからモダニズムへの過渡期であり、特に第1次大戦後は20世紀を代表する多くの若い才能が現れた。今年はその中から、Ernest Hemingway を採りあげ、代表的短編を精読しつつ、作家の生涯を貫いた文学的テーマを考察する。

【授業の進め方】

(池田)

1. Introduction
- 2~15. *Eden's Outcasts*

教員は随時内外の評論を提示し、作品について最も均衡のとれた批評を考察する一助としたい。

(山本)

1. 著者の紹介、作品の時代背景の解説。授業の進め方の説明。
- 2~15. 作品の精読。毎回指定した箇所を必ず予習して授業に臨むこと。他の作品や時代背景との関連について発言をもとめることもあるので、図書館等を利用して下調べをしておくこと。

【文献】

(池田) テキスト：John Matteson, *Eden's Outcasts* (2007; W.W. Norton)

参考文献：高田賢一編『若草物語』（ミネルヴァ書房、2006）

L.M. Alcott, *Work* (1873; Penguin, 1994)

(山本) テキスト：Ernest Hemingway *Indian Camp* (朝日出版)

参考文献：Joseph M. Flora *Hemingway's Nick Adams* (Baton Rouge and London: Louisiana State UP) 1982.

【成績評価】

レポート提出

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
英語圏文学特殊研究Ⅲ（イギリス文学）	選択	2	前期	2	演習	飯田 武郎

【履修条件】

イギリス文学に対して興味や関心があること。イギリス文学史を学部時代や大学院1年次で履修しておくことが望ましい。

【教育目標】

20世紀の代表的なイギリスの詩人 D. H. Lawrence の代表的な詩を読み、ロレンスが人間と自然とのつながり、自然そのものの生命の輝き、工業化社会の脅威による人間関係の希薄化の危機、人間の生命の本質としての闇などをどのように表現しているかについて学び、ロレンス詩の特質を自らの言葉で的確に表現できるようにする。

【内容】

“The Wild Common,” “Renaissance,” “Corot,” “Discipline” などによって人間と自然とのつながりを、“The North Country” によって工業化社会における人間のありかたについて、“Pine-tree,” “Fish,” “Snake,” “Kangaroo” などによって自然の生命の輝きについて、“St. Matthew,” “Medlars and Sorb-Apples,” “Bavarian Gentians,” “The Ship of Death” によって生命の本質としての闇についてそれぞれ学ぶ。

【授業の進め方】

飯田武郎他編著『D. H. Lawrence: 小伝と詩の鑑賞』山口書店、1999年をテキストとして使い、前もって各人の担当箇所を決めておき、毎時間当該箇所を発表してもらい、質疑応答、相互討論形式で授業を進める。

【文献】

飯田武郎他編著『D. H. Lawrence: 小伝と詩の鑑賞』山口書店、1999年

【成績評価】

毎週の発表と学期末のレポートで評価する。試験はなし。出席重視で、理由なく欠席すれば減点。

【お知らせ】

参考文献として次のものを勧める。

The Complete Poems of D. H. Lawrence ed. Vivian de Sola Pinto and Warren Roberts Penguin Books, 1972

Selected Poems of D. H. Lawrence, ed. Keith Sagar, Penguin Books, 1975.

上田和夫訳『D.H. ロレンス詩集』弥生書房、昭和60年。

飯田武郎『D.H. ロレンスの詩：闇と光をめぐって』九州大学出版会、1998年。

飯田武郎『D. H. ロレンスと神々の世界』京都修学社、平成7年。

飯田武郎編著『D.H. ロレンス：詩と自然』松柏社、2005年。

Michael Bell, Keith Cushman, Takeo Iida & Hiro Tateishi eds., *D. H. Lawrence: Literature, Culture, History*. Kokusho-Kankoukai Press, 2005.

Sandra M. Gilbert, *Acts of Attention: the Poems of D.H. Lawrence*. Cornell University Press, 1972.

Keith Sagar, *D. H. Lawrence: Life into Art*, Penguin Books, 1985.

Jan Todd ed., *D. H. Lawrence: Selected Poems* (Oxford U.P., 1993)

Bethan Jones, *The Last Poems of D. H. Lawrence: Shaping a Late Style*. Ashgate, 2010.

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
英語圏文学特殊研究Ⅳ（アメリカのユダヤ系作家）	選択	1	前期	2	演習	池田 肇子

【履修条件】

【教育目標】

現代における家族のあり方を考察する。その際19世紀後半ならびに20世紀初頭の家庭小説といわれる作品と比較対照して、現在にも適応し得る理想的な家族の形態を追求したい。

【内容】

ユダヤ系作家 Saul Bellow (1915-2005) の2作品をもとに親子関係を中心とする現代の家族の様相を考察する。19世紀の女性作家、特に Louisa May Alcott の *Little Women* に描かれる家庭ならびに20世紀初頭のカナダ女性作家 Lucy Maud Montgomery の *Anne of Green Gables* において描かれる（擬似）家族関係と比較対照する。

【授業の進め方】

Saul Bellow の “A Silver Dish” ならびに *What Kind of Day Did You Have?* を講読しながら、二人の女性作家の作品を対照して時代とともに変化した（と、思われる）家族関係の実際を検討する。

【文献】

- テキスト：“A Silver Dish” ならびに *What Kind of Day Did You Have?*
 参考文献：日本ソール・ペロー協会編『ソール・ペロー研究』（大阪教育図書、2007）
 春日キスヨ『家族の条件—豊かさのなかの孤独』（岩波書店、1994）
 河合隼雄ほか『家族はどこへいくのか』（岩波書店、2000）

【成績評価】

レポート

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
英語圏文学総合演習	選択	1	後期	2	演習	廣田 稔

【履修条件】

【教育目標】

英国小説講読による作品理解と鑑賞

【内容】

英国の女流作家の中から代表的なジェイン・オースティンとブロンテ姉妹及びディケンズの作品を取り上げ、修論研究としての研究対象を探る。『自負と偏見』、『嵐が丘』、『オリヴァー ツイスト』を読む。

【授業の進め方】

研究のテーマを模索するために、上記の作品を通して作者とその伝記的背景といった点にも考慮を加えつつ、上記各作品の主要な箇所を中心に読んでいく。各授業の進展に目配りしながら、演習形式的に作品のストーリーを忠実に読み解く努力を行うことによって、作品分析と研究への段階とする。各受講者に担当分を割り当て、読んでいく形とする。

【文献】

- Jane Austen : *Pride and Prejudice* 、Emily Bronte : *Wuthering Heights*
 『ブロンテ研究』（開文社）、『ブロンテ姉妹小事典』（研究社）、『ヴィクトリア朝の小説』（英宝社）等

【成績評価】

授業出席及び平素の努力と学期末試験

【お知らせ】

修士論文テーマに関する予備的相談ができればと考えています。

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
英米思想特殊研究	選択	1	後期	2	演習	Daniel E. Corl

【履修条件】

【教育目標】

英語の語彙力を増やすべく、上質の英文を精読する。Anne Morrow Lindbergh の名著、*Gift From the Sea* を通して現代人の生活のありかたを再考する。

【内容】

アン・リンドバーグのエッセイ集の内容を理解するとともに、あわただしい日常生活を振り返り、現代人の生き方を改めて考えたい。著者は初の大西洋単独横断飛行で有名なリンドバーグの夫人で、自身も飛行家、そして知的な活動もしていた女性だ。1955年に出版された『海からの贈りもの』は、今ではフェミニスト文学の草分けとして評価されている。ある島で二週間を過ごした彼女は、人生のさまざまな局面や状態を、浜辺で見つけたほら貝・つめた貝・日の出貝・牡蠣・たこぶね（学名アオイ

ガイ)の貝になぞらえ、その貝から学ぶべきことを順に語っていく。自分の内面に目を向け、自然からヒントを得、どうすれば自分の軸をしっかりと据え、自己を見失わず、創造性豊かな人生を送れるかを自問しながら、女性の生き方を書き綴っている。

当時のアメリカの裕福な女性は、世界最先端の暮らしをしていたが、彼女らが悩まされていた「時間に追われ、精神を貧しくさせる生活」は、現在、男女を問わず、多くの人が直面している問題である。本書が、生活に疲れを感じている人、自分自身ともっと調和して生きたいと感じている人、これから「人生の午後」を楽しみたいと考えている人に、今でも読み継がれている所以である。

【授業の進め方】

演習形式をとる。毎回、所定の文量を予め調べ、荒訳を用意して、授業中には音読してもらう。目標はテキストの精読である。

【文献】

Anne Morrow Lindbergh『海からの贈りもの - Gift from The Sea』講談社インターナショナル、2006。ISBN-13: 978-4770040459

【成績評価】

平常点（授業時の発表）およびレポート。

【お知らせ】

毎週最低3時間は予習に費やす覚悟がないと、単位取得は困難と思われる。

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	難波 征男

【履修条件】

修士論文を作成する院生

【教育目標】

修士論文を作成すること。

【内容】

修士論文作成に必要な資料解読や調査研究、論文作成能力を養成する。
各自の研究課題と論文作成の進行段階に対応した指導を適宜行う。

【授業の進め方】

- ① 修士論文執筆上の指導
- ② 調査活動方法の指導
- ③ 研究課題の検討
- ④ 研究計画の検討
- ⑤ 研究方法の検討
- ⑥ 先行研究文献の調査
- ⑦ 先行研究文献の解読能力養成
- ⑧ 資料の読解演習
- ⑨ 資料の読解演習
- ⑩ 資料の読解演習
- ⑪ 資料の読解演習
- ⑫ 資料の読解演習
- ⑬ 資料の読解演習
- ⑭ 論文作成指導
- ⑮ 論文作成指導

【文献】

各自の研究課題に応じた基本文献・資料

【成績評価】

資料解読能力や論文作成能力によって評価する

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	東 茂美

【履修条件】

【教育目標】

研究方法の習得と具体的な研究成果（修士論文）の提示を学習の目的とする。

【内容】

前学年でおこなった各自の研究テーマの絞り込みとそのテーマに即した研究法の模索とをふまえて、具体的に研究を進めるのが内容である。したがって、各自の異なる研究テーマから授業は始められることになる。

【授業の進め方】

研究テーマの整理と絞り込み・設定

研究テーマが拡散したままで絞り込めない場合、限られた短い機関で作成する研究論文の構成に見通しが立たない。まず前年度までの基礎的調査とその成果を明確にする。

基礎調査とその内容整理

しほりこんだ研究テーマに即し基礎調査の繰り返しとその内容を論文の構成を鑑みながら整理する。基礎調査の徹底が論文骨子を支えてくれるはずである。

先行論文等の探査と蒐集・整理

論文の内容に関係する先行論文が本学の図書館・近隣の図書館等に所蔵されているとはかぎらない。前学年時に蒐集し整理しておいた先行論文とともに論文作成と並行してさらに先行論文への気配りを忘れないように。

口頭報告

前期の中間報告とし口頭でのレポートをする。こうした報告には他の院生も真摯に耳を傾け相互の研鑽としたい。

【文献】

授業の内容から、履修院生各自でまったく異なるわけだが、参考書となるものは、院生研究室に常備するようにし、さらに頻繁に用いるもっとも基本的なものは、人数分を研究室で購入する予定である。

【成績評価】

研究論文の内容は別途評価の対象となるので、ここでは研究論文作成に取り組もうとする姿勢に重点をおき、いわゆる態度主義評価の方法をもって成績評価としたい。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	廣田 稔

【履修条件】

修士2年

【教育目標】

前期修士論文指導を目的とする。

【内容】

ウイリアム・ワーズワス 並びにウイリアム・ブレイクの詩を取りあげる。

具体的にはワーズワスの各詩篇を詩人の育った湖水地方の自然を背景とした伝記的な要素を踏まえ、詩人としての成長の軌跡をその自然観と思想上の問題点を考究しつつ、解釈を行う。また可能な限り詩人の詩魂の形成史としての『序曲』にも触れ、詩人の全体像への理解を深めることを目指す。

ウイリアム・ブレイクに関しては『無垢と経験の歌』を中心とした詩篇を読み解き、その思想と芸術を多角的視野から考察したい。前期中に修士論文に必要な参考文献その他についてできる限り収集を試み、上記詩人たちについての論文作成への基礎的作業を行いたい。両詩人の特徴に焦点が絞れる形を模索していきたい。

【授業の進め方】

ワーズワス及びブレイクの詩篇を読み解く演習形式で行う。

【文献】

Oxford University Press による、ワーズワス詩集・ブレイク詩集・その他関連する和洋の研究書

【成績評価】

出席状況、毎回の演習における平常点

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	日野 資成

【履修条件】

修士論文を仕上げる。

【教育目標】

学生の修士論文のテーマに添った文献、資料を紹介し、検討する。今年度は、ことばに表れる比較文化をテーマとする。まず Sequoyah の英文の日本語訳を輪番で行い、次に日米の教科書の比較、日中英のことわざ比較などを行う。

【授業の進め方】

おおむね以下の予定で進めるが、途中、修士論文の経過報告を定期的に行い検討する。

- 1-5 Sequoyah の翻訳
- 6-8 日米の算数の教科書比較
- 9-10 日米の社会の教科書比較
- 11-15 日中英のことわざ比較

【文献】

Rumford, James. 2004. *Sequoyah*. Boston: Houghton Mifflin Company.

Pre-Algebra California edition 2001. Prentice Hall.

Social Studies. 2005. Houghton Mifflin.

その他

【成績評価】

評価：レポート50% 発表20% 授業参加ならびに出席30%

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
特別研究Ⅰ	必修	2	前期	2	演習	岩井 眞實

【履修条件】

【教育目標】

修士論文作成。

【内容】

演劇・芸能をテーマとした修士論文の指導を行う。

【授業の進め方】

1. 研究テーマの再検討と絞り込み
2. 研究計画の確定
3. 資料の蒐集状況の点検
4. 資料の読解指導
5. 資料の分類・整理指導
6. 修士論文の構成の点検
7. 論文執筆の指導

【文献】

履修者各自の文献を用いる。

【成績評価】

修士論文の進捗状況によって評価する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	難波 征男

【履修条件】

修士論文作成者

【教育目標】

修士論文作成

【内容】

修士論文の作成過程を通じて専門的研究能力を養成する。

【授業の進め方】

- | | |
|--------------|----------------|
| ① 修士論文作成計画 | ⑨ 論文作成上の問題解決資料 |
| ② 先行研究文献読解調査 | ⑩ 論文作成上の問題解決資料 |
| ③ 基本資料読解指導 | ⑪ 論文作成上の問題解決資料 |
| ④ 基本資料読解指導 | ⑫ 論文作成上の問題解決資料 |
| ⑤ 基本資料読解指導 | ⑬ 論文作成上の問題解決資料 |
| ⑥ 基本資料読解指導 | ⑭ 論文作成上の問題解決資料 |
| ⑦ 基本資料読解指導 | ⑮ 論文作成上の問題解決資料 |
| ⑧ 基本資料読解指導 | |

【文献】

各自の論文作成のための文献・資料

【成績評価】

修士論文の水準

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	東 茂美

【履修条件】

【教育目標】

前期「特別研究Ⅰ」の成果をふまえ、修士論文を書き完成させることを目的とする。

【内容】

前期におおよその形となっている修士論文の構成を再検討しながら、研究テーマの深化をはかって内容の発展・削除等をおこなう。

【授業の進め方】

- ① 章ごとの原稿を一週間前までに教員へ提出する。
 - ② 教員による添削。
 - ③ 提出した原稿の内容にそって口答発表と試問。
 - ④ 原稿の推敲・加筆。
- のサイクルで各授業をおこなう。

【文献】**【成績評価】****【お知らせ】**

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	廣田 稔

【履修条件】

修士2年

【教育目標】

後期修士論文指導を目的とする。

【内容】

基本的には前期特別研究Ⅰの延長として修士論文完成へ向けて研究指導を行う。

【授業の進め方】

テーマの確定、またそれに必要な多角的視座からの模索検討を行うことを課題として、論考をより学問的に意義あるものとなすために、ワーズワス、ブレイク 両詩人の詩を出来るだけ多く読み分析することに専念したい。修士論文の構成を常に念頭に置き、演習形式で行いたい。最終的に論文として仕上げを試みる。

【文献】

前期特別研究Ⅰに記した文献に加え、新たに収集した論考などを参照する。

【成績評価】

出席状況、毎回の演習における平常点、提出された修士論文によって行う。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	日野 資成

【履修条件】**【教育目標】**

修士論文を仕上げる。

【内容】

学生の修士論文のテーマに添った文献、資料を紹介し、検討する。後期も、ことばに表れる比較文化をテーマとし、日英の挨拶表現、『雪国』と Snow Country の比較などを行う。

【授業の進め方】

おおむね以下の予定で進めるが、途中、修士論文の経過報告を定期的に行い検討する。

- 1-10 『雪国』と Snow Country の比較
- 11-15 日中英の挨拶表現の比較

【文献】

川端康成 『雪国』 1947年 新潮社
 エドワード・サイデンスティッカー Snow Country (『雪国』の英訳) 1957年 Charles E. Tuttle Company.
 その他

【成績評価】

評価：レポート50% 発表20% 授業参加ならびに出席30%

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	岩井 眞實

【履修条件】

【教育目標】

修士論文作成。

【内容】

前期に引き続き、演劇・芸能をテーマとした修士論文の指導を行う。

【授業の進め方】

1. 論文の章立て指導
2. 資料の再点検
3. 独自の知見の検討
4. 論文執筆の指導

【文献】

履修者各自の文献を用いる。

【成績評価】

修士論文の水準によって評価する。

【お知らせ】

2. 臨床心理学専攻授業内容

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
キリスト教と人間	必修	1	後期	2	講義	中川 憲次

【履修条件】

【教育目標】

たとえば、死別などで愛する存在を失って悲嘆（グリーフ）にくれる人に対してどのようなケアをすればよいのかを考える、いわゆるグリーフケアについて理解を深めていただく。

【内容】

まず、ボエーティウス著『哲学の慰め』とマイスター・エックハルト著『神の慰めの書』をグリーフケアの観点から講義する。次に、現代のグリーフケアをめぐる著作等を取り上げて講義する。その際、キリスト教の価値観がグリーフケアにどれだけ有効であるかを探る。

【授業の進め方】

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅲ |
| 2 「マイスター・エックハルトにとっての悪」Ⅰ | 10 『哲学の慰め』と『神の慰めの書』の比較 |
| 3 「マイスター・エックハルトにとっての悪」Ⅱ | 11 現代のエピソードⅠ |
| 4 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅰ | 12 現代のエピソードⅡ |
| 5 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅱ | 13 高橋克樹氏の研究発表をめぐってⅠ |
| 6 ボエーティウス著『哲学の慰め』Ⅲ | 14 高橋克樹氏の研究発表をめぐってⅡ |
| 7 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅰ | 15 まとめ |
| 8 マイスター・エックハルト著『神の慰めの書』Ⅱ | |

【文献】

テキスト：毎回プリントを配布する。

参考文献：講義中に適宜紹介する。

【成績評価】

毎回の討論参加度 80%

出席（授業態度等） 20%

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
社会心理学特論	必修	1	前期	2	講義	田崎 敏昭

【履修条件】

【教育目標】

個人と個人、個人と集団、個人と社会相互間に繰り広げられる複雑で多様な現象は理論的にどう解釈され、説明されるかを論じ、人間の社会行動の背後にあるメカニズムの法則性を理解させる。

【内容】

社会的行動の基礎、個人と個人の相互作用、対人的コミュニケーション、対人的影響過程、大衆現象、日本人の社会的心性などのテーマをとりあげ、そこに展開される理論との関係を述べる。

【授業の進め方】

授業回数

1-4. 社会的行動の基礎

社会的知覚

社会的動機

社会的態度

5-7. 社会的相互作用

対人的距離

対人的相互作用

対人的コミュニケーション

援助と攻撃

8-10. 大衆現象

群集行動

流行および普及

広告と消費行動

11-13. 日本人の社会的心性

集団主義

たて社会

世間体

- 14. 予備
- 15. 試験

【文献】

教科書は使用しない。参考文献については講義の折、指示する。

【成績評価】

論述式試験をおこなう。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
発達心理学特論	必修	1	前期	2	講義	奇 恵英

【履修条件】

【教育目標】

発達心理的知見は臨床心理の実践と密接に結びついており、特に虐待、子育て不安、不登校、学級崩壊など、近年の様々な社会的問題を理解し、対応するにも有効である。

【内容】

生涯発達の視点に基づき、その発達のメカニズム及び発達に影響を与える要因を心理学の観点から探求する。本講義では、人間の人格、認知、情緒、社会性、言語などの心理的発達の基礎的問題と、家族や集団などの人間をとりまく環境条件の問題を、最新の研究動向、結果を踏まえ、理論的に解明する。

【授業の進め方】

下記の流れに沿って、一つのテーマに対して2回または3回の授業を行う予定である。各テーマに沿って、必要な文献を選定、講読しながら、ディスカッション等を通して、内容を深め、多角的な視点から理解、考察することができるようにする。

- 1) 発達心理学総論及び研究動向
- 2) 認知の発生
- 3) ことばの獲得と発達
- 4) 生活・文化と発達
- 5) 生涯発達の視点からみた発達段階の課題と危機
- 6) 発達危機と援助のあり方
- 7) 女性の発達心理学

【文献】

テキスト：『自閉症の僕が跳びはねる理由』東田直樹著、エスコアール、2007
その他、論文、文献等、随時提示する。

【成績評価】

出席、レポート内容の総合評価

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
臨床心理学特論 I	必修	1	前期	2	講義	大野 博之

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理士という高度専門職業人としての基本素養と知識を身につけることを中心におきながら、知識偏重にならず、人のこころに寄り添う知恵と感性を育てていくための基本的材料を十分備えることを目標とする。

【内容】

臨床心理学の定義について、国内外におけるその歴史と現状、社会・文化との関連性などから幅広く熟考、議論する。その上、臨床心理士のアイデンティティ定立につながる資格制度、養成制度の位置づけ、モデル、現状等について検討、議論し、臨床心理士という高度専門職業人のあり方及びその意義についての内省や自覚を促す。

【授業の進め方】

テキストの内容の流れを中心としながら、補足資料の検索・検討を加えた知識の習得のもと、受講者各々の考察と議論を中心に進める。おおまかな授業の進め方は以下の流れに従う。

- 1) 臨床心理学の成立と展開；臨床心理学の定義
- 2) 臨床心理学の成立と展開；臨床心理学の歴史
- 3) 臨床心理学の成立と展開；臨床心理学と臨床心理士
- 4) 臨床心理学の課題と展望；国内外の現状と展望
- 5) 臨床心理学の援助論
- 6) 臨床心理学における倫理問題
- 7) 臨床心理学の課題と展望

【文献】

テキスト：『臨床心理学原論』、臨床心理学全書Ⅰ、大塚義孝編、誠心書房
 参考文献：必要に応じて随時提示する。

【成績評価】

出席、レポート内容の総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床心理学特論Ⅱ	必修	1	後期	2	講義	牧 正興

【履修条件】**【教育目標】**

臨床心理学という学問体系の理解とその理論を学ぶことの意味について考える。さまざまな臨床心理学的方法論を学びつつ、臨床心理士を目指す者のアイデンティティを確立し、自らの進むべき最低限度のスタンス、方向性を見出すことを本講の目標とする。基礎的理論を学びながらも、単なる理論的知識から離れ、実践力のある人間性の構築まで発展できれば幸いと考えている。

【内容】

臨床心理学の実践において、その対象への理解と具体的な援助はあくまでも科学的根拠に基づいたものでなければならない。当然のことながら、心理臨床に自然科学の研究方法をそのまま取り入れることは不可能である。「科学的だからよくて、科学的でないからダメだ」という考え方も短絡的過ぎる。しかし、心理療法には客観的なデータを集め、それに基づいて臨床的営みを行うことは必須の条件である。『希望を失わずに、傍らに在る』ことは心理臨床の基本でもあるが、治療者が来談者とはまったく違った見地から状況を見ることができるともその専門性が故になせる技でもある。その専門性とは何かについて、具体的な学びの中から究めていく。

【授業の進め方】

基本的にはテキストの内容の流れに沿って学んでいく。同時に補足資料の提示・検索を加えてより身近なものとなるよう進めていく。具体的には読み合わせと、レポートによって、問題提起を行い、検討を重ねていく。

- | | |
|---|---|
| I 心理臨床の基礎
1. 理論統合について
2. 心理臨床の効果
3. 心理臨床家になること
4. 倫理の問題
II 臨床心理学の諸理論
1. 洞察的方法
2. 支持・表現的方法
3. 訓練的方法
4. 認知的的方法 | III 技法と実践
1. 心理臨床技法
2. 治療過程を促進する諸技法
3. 心理臨床の実践 |
|---|---|

【文献】

テキスト：『心理療法入門』理論統合による基礎と実践 古宮昇 創元社
 参考文献：必要に応じて随時提示する。

【成績評価】

出席、レポート内容の総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床心理面接特論Ⅰ	必修	1	前期	2	講義	大野 博之

【履修条件】**【教育目標】**

諸種の心理療法が行われる場面を臨床心理面接としたとき、そこに共通する作業は被面接者をわかること、それに基づいた見立ての確立、さらに、面接者と被面接者の間に起こる関係性や生み出されるやりとりの質と内容を吟味し、展開していく道筋をつかむことといえよう。このような自他の理解とコミュニケーションのもっとも本質的な学びは、われわれの存在そのものであるからだの動きや姿勢を見極め、動きかけ方を身につけることが非常に有効である。本講義では、からだの動きや姿勢への動きかけに焦点を当て、臨床心理面接における基本的構えや関わりを身につけることを目標とする。

【内容】

上記の観点から発展してきた日本独自の心理療法である動作法の理論をベースに開発された主動型リラクゼーション療法の理論と実技を中心として、他の技法との関連も視野に置いて、面接者、被面接者それぞれに対する観察力、見立て力を養い、それをもとに、実際の関わりで展開される面接のプロセスや目標になった変化の達成とその理解の仕方などを学ぶ。

【授業の進め方】

- ① 心理療法における「こころ」と「からだ」の綿密な関連性について臨床心理実践事例を通じて理解する。
- ② 身体性に着目した心理療法、例えば、催眠療法や漸進弛緩法、自己コントロール法などの理論や技法に関する基礎知識を身につける。
- ③ 主導型リラクゼーション療法の理論と実技を学ぶ。
- ④ アクションメソッドとして、③の技法を自らの体験により習得する。
- ⑤ 以上の内容を通して見立てや臨床心理面接における関わりのあり方を学ぶ。

【文献】

必要なとき随時提示する。

【成績評価】

出席や課題の内容を総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
臨床心理面接特論Ⅱ	必修	1	後期	2	講義	牧 正興

【履修条件】**【教育目標】**

臨床心理面接における援助能力の習熟を図り、さまざまな臨床場面での応用力の向上を目指す。

【内容】

学校や病院その他の臨床領域における具体的事例の検討を多面的に行い、それらの事例を通して相談者との有効な援助関係の作り方や、心理面接の進め方を実践的に学んでいく。臨床心理面接が成功するためには、面接者自身の自己理解を深めておくことが必要不可欠であり、箱庭療法等も導入しながら、面接過程で生じる転移、逆転移、抵抗等への対応についても体験的に学習する。

【授業の進め方】

- I. 学校臨床と病院臨床
 - ・学校臨床の意義と役割
 - ・病院臨床の意義と役割
 - ・その他、各種相談所、施設等における心理臨床の意義と役割
- II. 心理診断のための面接法
 - ・クライアント理解の方法
 - ・インテーク面接とそのまとめ方
 - ・面接法の種類
 - ・心理診断の実際
- III. 臨床心理面接の実際
 - ・ラポール、共感、リフレクション
 - ・不適応の成りたちと問題点
 - ・防衛的になることへの対処
 - ・多弁（または消極的）なクライアントへの対処
 - ・明確化、約束、変化対治療の問題
 - ・終結と問題

*これらの流れのなかに随時箱庭療法等を導入していく

【文献】

「方法としての面接」土居健郎 医学書院

【成績評価】

講義への参加意欲と貢献、レポート、質疑応答 等の総合評価

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
臨床心理査定演習Ⅰ	必修	1	前期	2	演習	原口 芳博

【履修条件】**【教育目標】**

臨床心理査定の方法つまり心理テストの実施法、分析法、所見の書き方について演習し、それらのテストについての習熟を図ることを目標とする。本演習では主に知能検査の演習を中心とする。

【内容】

本演習では、知能検査の演習を中心とし、受講者が査定者体験と被査定者体験を行い、その体験を資料として使用し、相互

に演習を進める。

知能検査としては、主に WAIS - III (WAIS - R も含む)、WISC - III、田中ビネー知能検査Vの実習を行い、実施法や「報告書 (所見)」の作成方法の基本について具体的に訓練し指導する。そのような視点から査定依頼者の目的を理解しつつ、査定対象者の福利に貢献する臨床的態度の修練と習得を重視した演習を行う。

【授業の進め方】

1回	オリエンテーション	9回	WISC- III実習 - 1
2回	臨床心理査定学について - 1	10回	WISC- III実習 - 2
3回	臨床心理査定学について - 2	11回	WISC- III報告書の検討
4回	臨床心理査定技法について - 1	12回	田中ビネー知能検査V実習 - 1
5回	臨床心理査定技法について - 2	13回	田中ビネー知能検査V実習 - 2
6回	WAIS- III実習 - 1	14回	田中ビネー知能検査V報告書の検討
7回	WAIS- III実習 - 2	15回	まとめ
8回	WAIS- III報告書の検討		

【文献】

教科書：津川律子・篠竹利和 (2010) シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査 誠信書房
 参考書：大塚義孝他監修 (2003) 臨床心理査定学 誠信書房

【成績評価】

①発表内容、②レポート内容、③授業への参加態度などを総合的に判断し評価する。

【お知らせ】

各心理検査法に実施についての予習を課題とする。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床心理査定演習Ⅱ	必修	1	後期	2	演習	重橋 のぞみ

【履修条件】

臨床心理査定演習Ⅰを受講していること。

【教育目標】

心理テスト法による査定を中心とし、知能検査 (ウエクスラー法等)、性格検査の質問紙法 (YG性格検査等)、投影法 (ロールシャッハテスト・TAT等) のテスト・バッテリーの問題及び査定結果の総合的な報告書作成についての具体的教育訓練を行う。かつ査定依頼者や査定対象者に対する報告書の臨床的な伝え方を演習し、スーパービジョンを行い、査定対象者の福利に貢献する態度の修練習得を重視した演習を行う。

【内容】

前期「臨床心理査定演習Ⅰ」における実習内容をさらに展開する。「臨床心理査定演習Ⅰ」において学んだ施行方法、検査における倫理、場の雰囲気、被検査者の体験 (負担) を踏まえ、本授業では自らが検査者として他者に検査を実践し、その結果を分析し、所見をまとめ、発表することを課す。これらの課題を通して、検査場面における自分の対応の特徴および問題を明らかにするとともに、分析の仕方、所見の書き方を習得し、多面的に人間を査定する力をつける。

【授業の進め方】

前期「臨床心理査定演習Ⅰ」における実習内容をさらに展開する。授業前半は知能検査 (ウエクスラー法等)、ついで投影法 (ロールシャッハテスト) の検討を行い、後半はテスト・バッテリーについてとりあげる。

履修者は実際に心理検査を実施しその所見をまとめ、授業において各自発表を行う。これらの発表者の所見について、スコアのつけ方、分析の仕方について討論を行い、基本的な所見の書き方を理解するとともに、多面的に人間を捉えまとめる視点を身につける。また、実際の臨床実践における症例も随時とりあげながら、健康なパーソナリティから病理の視点まで視野にいれるとともに、テスト・バッテリーの実際について学ぶ。

- 1、知能検査の所見発表 (第1回～第4回)
- 2、知能検査臨床例検討 (第5回)
- 3、ロールシャッハ検査の所見発表 (第6～9回)
- 4、ロールシャッハ検査臨床例検討 (第10回)
- 5、その他の検査発表 (第11～12回)
- 6、テスト・バッテリー (第13～15回)

【文献】

必要に応じて資料 (心理検査の結果) を提示する。

【成績評価】

心理査定への理解、習熟度について、レポートの内容および授業中の討論より捉え、総合的に判断する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床心理基礎実習	必修	1	通年	2	実習	大野 博之 奇 恵英 重橋 のぞみ 富永 幹人 原口 芳博 牧 正興 米川 勉

【履修条件】**【教育目標】**

臨床心理基礎実習においては、学内附属臨床心理センターでの実習や学外実習施設において行われる実習の基礎段階として、実際にこれらの施設において援助ができるようになるための基本的な技術の習得とそのために必要な基礎的な訓練（含む体験）を行う。その際担当者および関係教員は、院生が自分自身の内界をより理解するように関わるとともに、場合によっては将来臨床心理士として活動するために必要な自己改善についての指導も行う。

【内容】

院生が自分自身の内面をより理解すること、すなわち自己理解を促す授業内容を設定する。その上、来談者と関わるために、心理臨床に関する基本的態度および附属臨床心理センターでの実習（臨床実践）に必要な知識や態度を学ぶ。さらに、臨床心理士の活動領域とその職務について学ぶために、事前事後指導に基づいて学外実習（見学実習）の体験と報告を行う。

【授業の進め方】

- 1) 電話応接の仕方、料金の受け取り方、関係法規、倫理規定等について授業を設け、心理臨床家の態度に関する意識を高める指導を行う。
- 2) インテーク面接の体験実習（ロールプレイ等）および陪席実習を行うとともに、その体験実習についての記録およびレポートの書き方（インテーク報告の書き方）について指導する。
- 3) ロールプレイ等による相互心理面接（カウンセリング）を通して、クライアントとの関係作り、査定、共感的理解の仕方、自分の話し方・聞き方に対する気づき、応答の工夫等の技術と訓練を実習する。その際ビデオに記録し、具体的に指導助言を行い、改善していく。
- 4) ロールプレイ等による相互心理面接（カウンセリング）を通して、関係作り、査定、共感的理解の仕方、援助方法の仕方、面接の終わり方、次回へのつなぎ方等の技術と訓練を実習する。ロールプレイはビデオに記録し、具体的に指導助言を行い、改善していく。
- 5) 倫理問題は実際の事例を題材に討論を通し、自らの問題として捉え、考える力を身につける
- 6) 事例検討を通して、臨床像の捉え方、事例の読み方、捉え方に対する気づきの訓練を行う。
- 7) 夏季に学外実習を設定し、その事前事後指導及び体験後、後期に報告を行う。

【文献】

随時呈示する。

【成績評価】

各授業内容に従って、実習参加態度、提出物を含め、担当教員チームが総合的に評価する。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床心理実習	必修	2	通年	2	実習	大野 博之 奇 恵英 重橋 のぞみ 富永 幹人 原口 芳博 牧 正興 米川 勉

【履修条件】

臨床心理基礎実習を終えており、臨床実習員として臨床心理センターの実習を行っている者。

【教育目標】

臨床心理士の活動現場である学外施設における実習に備えて、いかに院生自身が心理アセスメントと見立てにおける臨床的目と説明能力を身につけて実際に臨むようにするかを目的としている。次に、院生が学外施設で行った実践及び体験を振り返り、その意味を深め、吟味する力を身につけることによって、臨床心理士としてのアイデンティティと素養を体験的に洞察することで、実習体験を自分のものにすることが重要な目的となる。

【内容】

多様かつ複数の対象に対する心理査定及び所見のまとめ、事例の検討、現場実習での実際の関わりの検討などが主な内容となる。個別事例の見立てに基づいて、対象の心理的变化及び援助者の関わりのプロセスを読み解く力を養うためのディスカッションと、現場実習を通して体験する心理臨床関連の専門職とのチームアプローチについて内省及び分析を行う。

【授業の進め方】

- 1) 心理査定法の各々の特徴をつかむために、質問紙、投影法など、多種の心理査定を複数の人を対象に行い、その所見をまとめ、発表する。
- 2) 事例検討を通して、臨床像の捉え方、事例の読み方、捉え方に対する気づきの訓練を行う。
- 3) 夏季または通年の学外実習を設定し、その事前・途中・事後指導と同時に、体験後、後期に報告を行う。授業の進行は、主に院生が進行を担当することによって、集団との関わり、集団を動かすリーダーとしての体験を通して、個別だけでなく、集団を対象にした関わりのスキルを養う。
- 4) 臨床実践の実際を幅広くかつ総合的に理解するために、臨床心理における諸分野の事例研究を取り上げ、読み解く。

【文献】

随時呈示する。

【成績評価】

各授業内容に従って、実習参加態度、提出物を含め、担当教員チームが総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
家族関係特論	選択	1	後期	2	講義	高 仁淑

【履修条件】

特になし

【教育目標】

現代家族を取り巻く家族形態は多様な形態・家族システムに変化し、家族のあり方が問われている。小さな社会である家族集団における身近な家族関係について体系的に学ぶとともに、現代社会における家族社会の変動について理解し、家族関係の課題を教育、臨床、福祉、医療など家族援助の観点から検討する。

ここでは、現代的な家族の特質と現実を問直し、フィールドワークをもとに家族構造と現状を国際比較検討し、21世紀の家族援助と課題について考える。

【内容】

- (1) 家族の定義と人間性
- (2) 日本の家族制度とその変化
- (3) 子どもの発達と親子関係
- (4) 結婚と離婚
- (5) 高齢化社会における介護問題と家族のケア
- (6) 医療技術の発達と家族関係
- (7) 子育て支援：保育・幼児教育の現状と政策（日韓比較検討）
- (8) 男女参画社会と社会福祉制度・政策
- (9) 現代社会と精神障害：家庭内暴力、DV、児童虐待、登校拒否と引きこもり
- (10) 次世代育成と家族援助の支援の実際
- (11) 地域社会の家族支援とネットワーク
- (12) ライフスタイルと環境の変化
- (13) 21世紀の家族援助と課題
- (14) 聖書にえがかれた家族観、まとめ
- (15) 期末試験

【授業の進め方】

講義形式で、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきたい。

【文献】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価】

出席状況、授業参加度、学期末テスト

【お知らせ】

メディアを使った授業でも各自ノートをとること。

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
心理統計法特論	選択	1	後期	2	講義	米川 勉

【履修条件】

心理統計に関する基礎知識をもっていること。またコンピュータの取り扱いに慣れていて、表計算ソフト Excel の基本操作を習得していること。

【教育目標】

心理統計法特論では、心理統計に関する基礎知識をもとに、統計的分析に関する理解を確実にするとともに、修士論文の研究を進める上で不自由のない程度に使えるようになることを目標とする。具体的には、統計手法の基本的考え方を理解し、代表的な統計パッケージである SPSS を使って実際の研究や調査のデータ処理が行えるようになることを目指す。また模擬データを用いたデータ処理演習を通して、探索的研究の進め方や仮説検証型の研究についても理解を深めるようにする。

【内容】

個々の統計手法に関する演習問題を解いていくことで、SPSS の取り扱いに慣れていくようにする。また模擬データを用いて、多変量解析の重回帰分析や因子分析、クラスター分析などの考え方や原理を平易に説明し、分析の実際について演習する。最終的にはデータ解析の基礎から、結果の解釈、効果的な提示の仕方までをマスターできるようにする。主な内容は次の通りである。

1. SPSS とデータ処理、基本統計量
2. 質的データと数量化
3. 相関係数
4. 統計的検定
 χ^2 検定、F 検定、t 検定
5. 実験計画法（要因計画）
6. 多変量解析、分散分析
7. クラスター分析
8. 未知の因子を探る
主因子分析、主成分分析、判別関数
9. 因子分析の実際
10. 因果関係の分析
単回帰分析、重回帰分析、パス解析
11. 結果の表し方と効果的なプレゼンテーション

【授業の進め方】

最初は復習をかねて基本統計量の算出や多変量解析の基礎となる相関係数の取り扱いについて、統計パッケージ SPSS と表計算ソフト Excel を併用して計算演習を行う。次に実際に論文の中で使用されている統計技法を参考に、模擬データを用いて推測統計や多変量解析によるデータ処理を演習する。講義ではコンピュータを使って、計算の過程やシミュレーションを例示しながら、直感的に理解できるかたちでの学習を目指す。毎回演習問題が課され、それを解析してレポートすることが求められる。

【文献】

SPSS と AMOS による心理・調査データ解析
小塩真司 東京図書

【成績評価】

演習への参加の度合い、課題への取り組み、理解度、レポートの内容などを用いて総合的に判定する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
精神医学特論	選択	1	前期	2	講義	東中園 聡

【履修条件】

臨床心理学の専門家を志す者で、守秘義務が守れること。

【教育目標】

臨床心理士として必要とされる精神科医療についての基礎知識を学び、精神科医療の一員として参画しうる素養を育む。特に（どのような技法を駆使するかにかかわらず）、各種の精神疾患についての理解と共感力を身につけることを目指す。

【内容】

教科書や症例提示によって各種の精神疾患の精神病理の理解を学ぶことを中心に講義を行う。また、この背景にある、歴史と現状、他職種の独自性と協働、各種の治療アプローチとくに薬物療法などについても解説を加える。

【授業の進め方】

- 第1回 精神科医療の歴史と現状
- 第2回 統合失調症①
- 第3回 統合失調症②
- 第4回 躁うつ病
- 第5回 うつ病
- 第6回 神経症性障害①
- 第7回 神経症性障害②
- 第8回 ストレス関連障害
- 第9回 パーソナリティ障害①
- 第10回 パーソナリティ障害②
- 第11回 認知症など脳器質性障害
- 第12回 アルコール依存症・薬物依存など
- 第13回 知的障害・発達障害など
- 第14回 コンサルテーション・リエゾン
- 第15回 まとめ

【文献】

- 教科書：「専門医がやさしく語るはじめての精神医学」渡辺雅幸著（中山出版，2007年）
- 参考書：「摂食障害の精神分析的アプローチ」松木・鈴木編（金剛出版，2006年）
- 「抑うつ精神分析的アプローチ」松木・賀来編（金剛出版，2007年）
- 「精神病の精神分析的アプローチ」松木・東中園編（金剛出版，2008年）
- 「パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ」松木・福井編（金剛出版，2009年）

【成績評価】

出席回数、受講姿勢、レポートなどから総合的に評価する。

【お知らせ】

精神科医療、とくにそこにおける心理臨床はまだ未開拓な領域です。折れぬ心をもって、共にチャレンジしてまいりましょう。講義の際に積極的に質疑をしてください。

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
障害児者心理学特論	選択	1	前期	2	講義	昇地 勝人

【履修条件】**【教育目標】**

障害をもった子どもの理解のしかたおよび援助のあり方について理論と実践を通して学ぶ

【内容】

心身障害者の理解と支援のあり方について、テキストを中心としながら、障害者に関する心理学的研究論文を通じた論究および知的障害児施設における見学・実習を含めて幅広く検討する

【授業の進め方】

- 第1回 障害の概念
- 第2回 世界の情勢と今後の課題
- 第3回 障害の重積・深化の心理的プロセス
- 第4回 発達援助のための10の原理
- 第5回 視覚障害の理解と指導・援助
- 第6回 聴覚障害の理解と指導・援助
- 第7回 知的障害の理解と指導・援助
- 第8回 肢体不自由の理解と指導・援助
- 第9回 病・虚弱の理解と指導・援助
- 第10回 言語障害の理解と指導・援助
- 第11回 情緒障害の理解と指導・援助
- 第12回 重複障害の理解と指導・援助
- 第13回 広汎性発達障害の理解と指導・援助
- 第14回 発達障害（高機能自閉症・学習障害・注意欠陥多動性障害）
- 第15回 まとめ

【文献】

教科書：障害特性の理解と発達援助 昇地勝人他編 ナカニシヤ出版
 研究論文：特殊教育学研究、リハビリテーション心理学研究他より選択

【成績評価】

出席、授業中の態度（意欲）、じゅぎょうへの参加度、レポートおよび試験による総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
投影法特論	選択	1	後集	2	演習	中園 照美

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理士にとって、臨床心理査定は重要な業務の一つである。投映法のなかでも、ロールシャッハ法は習得に時間を要する検査であるが、本講義を通じて、分析と解釈、さらには「臨床実践に臨む態度」を身につけることを目標とする。

【内容】

「臨床投映法入門」（池田豊應編，ナカニシヤ出版）に記載された事例をもとに、ロールシャッハ法の分析・解釈の仕方の実際を学ぶ。また、臨床例の特徴についても紹介する。

【授業の進め方】

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 演習形式で行う。 | 第9回：解釈 |
| 第1回：オリエンテーションおよび実施法 | 第10回： 同上 |
| 第2回：分類記号とその意味 | 第11回： 同上 |
| 第3回： 同上 | 第12回： 同上 |
| 第4回： 同上 | 第13回：結果の総合と伝達 |
| 第5回：分析 | 第14回：臨床例の特徴について |
| 第6回： 同上 | 第15回： 同上 |
| 第7回： 同上 | |
| 第8回： 同上 | |

【文献】

教科書：「臨床投映法入門」（池田豊應編，ナカニシヤ出版）
 参考文献：「新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究」（片口安史著，金子書房） その他、講義内で適宜紹介する。

【成績評価】

出席および講義への積極的参加（30%）
 レポート（70%）

【お知らせ】

講義開始前に教科書を通読しておいてください。なお、教科書は名古屋大学式技法による記号化が記載されていますが、講義内では、片口法による記号化も併せて学習します。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
臨床薬理学特論	選択	2	前集	2	講義	服巻 豊

【履修条件】

臨床現場では、服薬中のクライアントに出会うことは日常的な出来事である。医療領域のみならず、臨床心理士としてクライアントの心理支援を行う際には、「こころ」にばかり注目するのではなく、「こころ」を取り巻く日常生活、こころをつかさどる脳の生物学的視点も求められる。そこで本講義では専門的知識はなくても、精神疾患の病態生理、薬効薬理など耳慣れないことについて、参考書をもとに調べ、新しい知識をもとにディスカッションできる粘り強い調査分析能力、考察能力を求める。

【教育目標】

医薬品の作られる開発段階から商品化されるまでの創薬プロセス、処方薬としての化学名を商品名、先発医薬品と後発医薬品薬の相違を知り、くすりを身近に感じる知識を習得し、臨床心理士がくすりのことを知る心の構えについて学ぶ。その上で、向精神薬：抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などのこころの病に用いられる薬に精神薬理学的知識を得て、医師や薬剤師とコラボレートする能力と服薬を支えることを通したクライアントの生活支援のあり方について学ぶことを目標とする。

【内容】

脳内の中枢神経系のシステム（CNS）ならびに神経細胞の情報伝達についての基礎的知識について学習する。中枢神経系に影響を持つ精神疾患や睡眠障害などの基礎的な病態生理とその薬物療法について知り、薬効を示す薬理学的知識について学習する。また、精神科の模擬処方箋をもとに処方箋の読み取り方、処方箋から読み取れる患者の病理水準についての予測可能性について学習する。以上のことを通して医学的、薬理学的知識を持った臨床心理士の知識活用のマナーについて学ぶ。

【授業の進め方】

講義形式とグループ発表形式とをあわせて精神薬理学的知識を習得する。

①臨床心理士が薬のことを知るといふこと、②薬はこうして作られる（医薬品の開発秘話）、③・④こころの病の病態、症状と薬との関係について、⑤こころの病の病態、症状と薬との関係について：症状、薬理作用、副作用と薬の使い方、⑥こころの病の病態のまとめ、⑦・⑧各論：抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の薬理学的理解、薬物動態学的理解について、⑨・⑩各論：抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の薬理学的理解、薬物動態学的理解について、⑪・⑫処方箋分析：精神科模擬処方箋の分析、⑬患者が考える薬への不安について・薬との上手なつきあい方と支え方、⑭臨床心理士としての薬の知識とのかきあい方、⑮まとめと最終レポート作成

【文献】

教科書：指定なし

参考書：「今日の治療薬2010年」水島裕編集（南江堂）

「治療薬マニュアル2010」（医学書院）

「心の臨床家のための精神医学ハンドブック」小此木啓吾ほか

「看護のための精神医学」中井久夫、山口直彦著

「こころの治療薬ハンドブック」青葉安里、諸川由美代編

「精神・心理症状学ハンドブック」北村俊則著

【成績評価】

グループによるミニレポートと発表の評価（40%）、最終レポート評価（60%）の総合評価を行う。

【お知らせ】

講義開始前に事前課題を提示し、グループ単位でのレジュメ作成を求めます。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
コミュニティ・アプローチ特論	選択	1	後期	2	講義	北島 茂樹

【履修条件】

【教育目標】

人間社会において生起する心理-社会的問題は、当人と環境の間の複雑な相互作用の産物である。にもかかわらず、「心理臨床」といった場合、理解と支援の対象は「個人」に向けられがちである。個人アプローチの各種理論を身につけ、スキルを向上させることは大切であるが、問題の本質性においても、また、有効性においても限界を有する場合が少なくない。

ここでは、問題を抱える個人やリスク・ポピュレーションに対して、彼ら・彼女らが基盤をおく生活環境としてのコミュニティの視点から、その解決や改善を図るアプローチ（いわゆる「コミュニティ・アプローチ」）について学んでいく。

【内容】

以下の内容と順序で講義を進める。

【授業の進め方】

1. コミュニティ・アプローチの基礎知識
 - 1) コミュニティ心理学の登場
 - 2) コミュニティ心理学の原理、理論、基本命題
 - 3) コミュニティ・アプローチと介入のレベル
2. コミュニティ・アプローチの実際
 - 1) 病院コミュニティにおける事例
 - 2) 学校コミュニティにおける事例
 - 3) 地域コミュニティにおける事例
 - 4) 職域コミュニティにおける事例

【文献】

教科書：使用しない

- 参考書：・「コミュニティ心理学」J.Orford 著（山本和郎監訳）（ミネルヴァ書房 1997年）
 ・「コミュニティ心理学－社会問題への理解と援助」K.G.Duffy&F.Y.Wong 著（植村勝彦監訳）（ナカニシヤ出版 1999年）
 ・「臨床心理学的地域援助の展開－コミュニティ心理学的实践と今日的課題」山本和郎編（培風館 2001年）
 ・「地域実践心理学－実践編」中田行重・串崎真志編著（ナカニシヤ出版 2006年）
 ・「コミュニティ心理学ハンドブック」日本コミュニティ心理学会編（東京大学出版会 2007年）
 ・「コミュニティ心理学入門」植村勝彦編（ナカニシヤ出版 2007年）

【成績評価】

発表・レポート及び平常点で評価を行う

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
教育心理学特論	選択	1	前期	2	講義	富永 幹人

【履修条件】

【教育目標】

子どもが学び、成長することを考えたとき、子どもを取り巻く対人関係、学級集団、学校組織といった環境面のもつ意味は大きく、またこの部分は学級経営や学校支援を考える上でも重要な部分である。本科目では、特に学校における対人関係や集団を理解するための知識や視点を身につけることを目標とする。

【内容】

学校における様々な対人関係や集団について、その特徴や問題について文献から学びながら、ディスカッションを通して理解を深めていく。

【授業の進め方】

以下のテーマについて、講義と受講生による発表およびディスカッションによって進めていく。講義終了後にレポートを課す予定。

1. 児童・生徒の人間関係（友人関係の形成、受容／排他性等）
2. 学級集団（学級風土、学級集団の発達等）
3. 教師と児童・生徒との関係（教師の影響力・リーダーシップ等）
4. 教師・教師集団（教師の人間関係、職場風土等）
5. 学校で起こる臨床的な問題（いじめ、学級崩壊等）

【文献】

教科書は使用せず、資料は随時提示する。

【成績評価】

発表40%、授業態度20%、レポート40%

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
学校臨床心理学特論	選択	1	後期	2	講義	林 幹男

【履修条件】

【教育目標】

学校における臨床心理学的援助の構造とその理解

【内容】

学校教育の当事者（教師・児童生徒）への支援システムにおける臨床心理学的アプローチの意義と特徴・専門性等に関する理論と技法

【授業の進め方】

1. 学校教育システム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1回
2. 児童・生徒の学校適応の過程と資源・・・・・・・・ 1回
3. 学校臨床心理学の構造・・・・・・・・・・・・・・・・ 2回
4. 児童・生徒の問題行動への理解と対応・・・・・・ 3回
5. 発達障害への理解と対応・・・・・・・・・・・・・・ 1回
6. 学校臨床心理学とスクールカウンセラー・・・・ 2回
7. スクールカウンセラーの専門性と作法・・・・・・ 2回
8. 学校臨床心理学行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1回
9. 学校危機と緊急支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1回
10. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1回

【文献】

教科書：未定（学期始めまでに指定・連絡する。）

参考書：授業時に適宜紹介する。また、関連したテーマに沿ったプリント資料も配布する。

成績評価

授業出席・参加（発表・討議参加等）状況と期末レポート内容とを考慮して総合的に評価する。

【お知らせ】

授業方法：授業は基本的に演習形式で進める。受講生は授業内容（テーマ）を分担し、毎回輪番で発題・発表するものとする。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
異文化交流特論	選択	1	前期	2	講義	丸山 孝一

【履修条件】

本講は比較文化専攻の必修科目であり、臨床心理学専攻の選択科目である。

【教育目標】

今や国際交流が日常化し、海外との情報流通がわれわれの生活にとって身近なものとなってきたが、それだけに外国文化を正当に評価し、また外国人に私たちの生き方、価値観をよりよく理解してもらうことが課題となっている。本講では、社会通念としての「文化」の概念を根本から再検討し、これから国際交流の中に進出して行くための基本的な知識と態度と方法論を考える。

【内容】

1. 文化概念の基本を考える。
2. 文化に関する先行研究の再検討。
3. 民族間関係の調和と緊張：特に少数民族の生き方に学ぶものは何か
4. 具体的現地調査の資料から考える：中国、韓国、アメリカ、タイなど。
5. 他者（個人、民族、国家レベル）との関係及び共存のあり方、特に文化相対論を再考する。

【授業の進め方】

1. はじめに
2. 文化とは何か：価値概念と記述概念
3. 時系列から見た文化：「文化遺産」の本当の意味
4. 文化に関する教育の問題：子どもをどうするか
5. 異文化とは？：空間としての文化
6. 文化の伝播とは何か
7. 文化の自足性、自律性と相対性：文化の相対性とは何か
8. 文化の境界性について
9. 越境する文化
10. 文化の力学とは何か
11. 文化の関係：接触・摩擦・衝突・調和のプロセス
12. 少数民族の生き方（1）：ウイグル族、シボ族
13. 少数民族の生き方（2）：南タイのマレー人
14. 少数民族の生き方（3）：日系アメリカ人
15. 結語：文化の普遍性と特殊性

【文献】

丸山孝一「周縁文化の視座：民族関係のダイナミックス」九州大学出版会、2010年

【成績評価】

1. 非定期的レポートと期末レポート
2. 平素の成績
3. 出席状況

【お知らせ】

学生との個別面接に応じるが、事前の予約を必要とする。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
教育人類学特論	選択	1	前集	2	演習	丸山 孝一

【履修条件】

なし

【教育目標】

教育人類学は学校制度そのものよりは、学校の枠をはみ出したところでの教育、たとえば家庭教育、地域における人間形成などに関心をもつことが多い。それも、個人の発達だけでなく、当該社会における文化の持続と変容というような側面を分析、考察する傾向がある。教育人類学には、まだ確立した理論体系があるとは言えないが、たとえば環境教育、生命倫理の教育、食育、

消費者教育、異文化理解の教育、あるいは生涯学習社会における高齢者の学習など現代社会において期待される役割が多い。教育とは、情報や技術を獲得し、これによって自己がこれまでに獲得した価値観を新たにし、行動様式や態度を変容させる過程である。本講では、このような教育のさまざまな機会を観察し、そこに内在する危機的状況の理解を促すことを目的とする。

【内容】

1. はじめに
2. 教育人類学の目的と方法
3. 他の教育学分野との異同
4. 教育人類学特有の分野
5. 教育人類学研究の成果
6. 教育の通文化的 (Cross-cultural) 比較研究
7. 教育の過程――インプットとアウトプット
8. 事例研究
 - 【その1】新疆ウイグル自治区における少数民族の教育
 - 【その2】サモアにおける成長 (M. ミード)
 - 【その3】アメリカにおける二言語学習の実態と課題

【授業の進め方】

1. 上記の諸問題についての討論
2. 下記文献の講読
Marvin Harris et al, "Culture and Personality"
その他

【成績評価】

レポート及び平素の成績

【お知らせ】

学生との面接時間：個別の面接に応じます。(要予約)

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
高齢者心理療法特論	選択	1	後期	2	講義	長野 恵子

【履修条件】

【教育目標】

高齢者に対する心理療法の技法の習得

【内容】

高齢者に対する心理学的理解と心理療法の適用

【授業の進め方】

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の心理的特徴 2. 高齢者への心理療法の適用 3. 高齢者とのラポールの構築 4. 心理療法実施のためのアセスメント 5. 高齢者への心理療法におけるグリーンワーク 6. 高齢者への心理療法におけるライフレビュー 7. 認知症者への回想療法 (1) 8. 認知症者への回想療法 (2) | <ol style="list-style-type: none"> 9. 認知症者への回想療法 (3) 10. コラージュ療法の適用 11. 動作療法の適用 12. 音楽療法の適用 13. 高齢者と死の問題 14. 事例研究 15. 事例研究とまとめ |
|---|---|

【文献】

教科書：「老年臨床心理学」
黒川由紀子・斉藤正彦・松田修著（有斐閣）

【成績評価】

受講態度、討論への積極的参加度、レポート内容の3点を考慮して、総合的評価をする。

【お知らせ】

討論への積極的参加を期待する。

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
生徒指導・進路指導(含実習)	選択	1	前期	2	演習	田崎 敏昭

【履修条件】

【教育目標】

学校における生徒指導、進路指導の基本的な考え方とその技術を理解し、実際の指導ができるようする。

【内容】

今日では、生徒指導＝問題行動対策、進路指導＝進学校決めといった風潮がある。ここでは学校教育における生徒指導、進路指導とは何かという基本問題を、それが成立してきた歴史をふまえながら押さえ、指導上の技術、方法を解説する。進路指導に必要なテスト、進路相談についても実習をふくめ実施する。

【授業の進め方】

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 授業のオリエンテーション | 9. 進路選択の理論 2 |
| 2. 生徒指導の意義 | 10. 進路適性と測定 1 |
| 3. 学校における生徒指導の実際 | 11. 進路適性と測定 2 |
| 4. 生徒の問題行動とその対処 | 12. 進路相談の理論と方法 |
| 5. 進路指導の意義 | 13. 進路指導の課題 |
| 6. 進路指導の歴史 | 14. 予備 |
| 7. 進路発達の理論 | 15. 試験 |
| 8. 進路選択の理論 1 | |

【文献】

教科書は使用しない。必要な文献はそのつど指示する。

【成績評価】

記述式試験

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
倫理学特論	選択	1	後期	2	講義	辻 厚治

【履修条件】

出席をし、分担した部分の要約をそのつど発表すること。

【教育目標】

倫理学というのがどんなことをやる学問領域なのかを知るために。

【内容】

私たちはなんの疑問も抱くことなく、正月にはお宮参りをし、お盆にはお寺に墓参りに行ったりする。こうしたありようにたいして西欧的な一神教の視点から、日本人ははっきりとした宗教的な立場がないとする批判がでてくる。さらにまた、私たち自身もどこかそういう見方にいつのまにか染められて、みずからを無宗教だと称してなんの疑問もいだかない。

そんな見方にたいして、イザヤ・ベンダサンは『日本人とユダヤ人』という本の中で、私たち「日本人」は、旧約聖書における唯一の神ヤハヴェを堅く取って離さないユダヤ人に匹敵するほどに強固な、「人間教」ともいべき宗教をもっているのだと主張する。たとえば、TVで「水戸黄門」や「大岡越前守」のシリーズなどで「人情味のある、人へのはからい」がさまざまに形を変えて描かれ、そうしたところに視聴者はジーンと心を揺らされることで、番組が長寿をたもっているのだ、と。

では、彼のいうところの「人間教」とはどんなことだろうか？

これは、森田療法という「ありのまま」の根元を考えることにつながっていくだろう。

【授業の進め方】

1. 滝沢克己『日本人の精神構造』(創言社)上巻の担当部分を受講者各自に割り当てる。初め部分は辻が担当する。その間に、各自はベンダサンの本を読み通しておくこと。
2. 輪読後担当部分を発表する。
3. 解説をくわえ、次に進むという形でおこなう。

【文献】

教科書は①と②の二冊、③は参考文献。

- ① イザヤ・ベンダサン『日本人とユダヤ人』(角川文庫ソフィア)、
- ② 滝沢克己『日本人の精神構造』(創言社)上巻、
- ③ 滝沢克己『日本人の精神構造』(講談社)は現在古本でしか手に入らない。したがってインターネットで検索し、古本屋で見つけるしかない。

【成績評価】

出席とレジメ発表を合わせ、判断する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
西洋思想特論	選択	1	前期	2	講義	増田 榮

【履修条件】

【教育目標】

テーマ：古代ギリシアにおける人間理解

古代ギリシアの詩人や思想家の残している言葉は人間についての深い洞察に満ちています。彼らが人間存在をどのようなものと捉えたのでしょうか？彼らは神と人を峻別します。また人の身体と魂・精神(プシケー)を区別し人の魂・精神に着目しました。多様な意味をもつ psyche (プシケー：魂、精神、心、心理、息等)という言葉を手がかりにして、人間存在を捉

える視点と方法についての理解を深めることを目的とします。

【内容】

心理学 (psychology) という言葉は、周知のごとくギリシア語の psyche と logos (言葉、理性、論理、学等) から成っています。人間の心を筋道立てて探求する学ということになります。心の探求といっても古代ギリシアでは、人間のあり方、人間存在そのものの探求を指しています。しかしその psyche は B.C.7世紀のホメロスでは人間が吐き出す息や墓の周りをさまよう霊を指しています。そして B.C.6世紀のヘラクレイトスでは、psyche は自己や自我を指すようになります。さらにプラトンでは psyche は知的部分、激情的部分、欲望的部分に分けられ、「魂の三部分説」が登場してきます。

講義はこれら psyche という言葉の変遷と人間存在の捉え方の関わりをたどります。

【授業の進め方】

はじめに

問題の所在

- (1) 古代ギリシアの思想・文化と現代
- (2) 叙事詩人の作品に現れる psyche
 1. ホメロス「耐えよ、わが心」
 2. ヘシオドス「パンドラの物語」
- (3) 抒情詩人たちにおける「われの自覚」
 1. アルキロコス「心よ、救い難い悩みに乱れた心よ」
 2. ミムネルモス「愛のないところ、なんの生きがいがあるぞ」
 3. アナクレオン「さればわれ恋しつつ、また恋を知らず」
 4. ピンダロス「人の子は陽炎のごときはかなきものよ、人とは何か、また、何でないか」
- (4) ソクラテス前の哲学者たち -- われの探求
 1. ヘラクレイトス「私は私自身を探求した」
 2. ピタゴラス「清められる魂」
- (5) ギリシア悲劇詩人たち -- moira (モイラ：定め、運命) と主体性
- (6) ソクラテス・プラトンの psyche -- よく生きる自己
 1. ソクラテス「無知の知」
 2. プラトン「魂の3部分説」
- (7) アリストテレス「デ・アニマ：心理学の誕生」

【文献】

テキスト：プリント

参考書：適宜、紹介します。

【成績評価】

レポート、発表、出席による総合評価

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	大野 博之

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理学の専門性や学問的意義に対する深い理解、理論的知識や思考を基礎として専門における課題探求能力及び論理的説明能力を養うことを目標とする。それによって、高度専門職業人としての「理論と実務の架橋」の構築及び「知識基盤社会」を支える高度で知的な人材養成を目指す。

【内容】

受講者各々の興味・関心をベースに、今後の臨床実践につながるテーマの設定、その基礎となる文献検索に基づいた研究デザインの作成を進めていく。臨床心理学の専門性をもつテーマであれば、特に内容に制限はない。研究テーマの理論的根拠及び意義の確立、それに基づいた研究方法の検討と習得が主な内容となる。

【授業の進め方】

主に、受講者の発表とディスカッション、それに基づいた助言を行う形式で授業を進める。具体的な流れは以下の通りである。

- 1) 研究テーマ設定のための綿密な文献検索とその論理的構成
- 2) 研究テーマに適した先行研究の選定と要約による問題の設定
- 3) 先行研究における研究方法の有効性に関する検討
- 4) 問題の設定に適した研究方法の設定
- 5) 研究デザインの作成及び検討

【文献】

各自の研究テーマに応じて随時提示、助言する。

【成績評価】

課題達成能力、提出課題の内容及び質の程度等を考慮し、総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	牧 正興

【履修条件】

【教育目標】

修士論文に向けて、関係資料を収集するとともに、自らの興味・関心に合わせた研究課題を模索し、確実なテーマ設定を行う。

【内容】

主に、乳幼児期から青年期におけるさまざまな問題に対して、臨床・発達の視点から問題点を絞り込む。関連資料の収集や予備的研究を行うなか、お互いが発表し合い、研究動機を高めるとともに、研究内容についてのより詳細な吟味を行う。特に人のこころを対象とする研究のために、ややもすると、あまりに壮大な発想によってその焦点が曖昧になってしまう可能性もある。本科目（特別研究 I）ではしっかりした焦点づけと、それに基づくテーマ設定のための豊富な資料収集による基盤づくり、そして研究方法について検討する。

【授業の進め方】

1. 関心領域の決定と資料の収集
2. 関心のある研究領域の確定とテーマ設定
3. 方法論の吟味

【文献】

当事者の研究テーマに沿った文献や資料を中心に、指導者が紹介する文献等を使用する。

【成績評価】

研究や姿勢や態度、熱意、授業への貢献度等を総合評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	原口 芳博

【履修条件】

【教育目標】

受講者が修士論文作成のための研究題目と目的を明確にし、決定することが目標である。その達成のために必要な研究方法と文献検索法などを学習する。研究題目決定後は先行研究を検討しながら、研究方法に基づいたデータ収集の準備を行う。

【内容】

受講者が修士論文作成のための基礎的作業として、臨床心理学関係の先行研究の文献を検索収集し、精読し、発表する。その過程で研究目的を明確化し、方法の妥当性、研究結果の信頼性などについて多面的に検討して、研究題目を決定する。それを踏まえて研究の進め方についてさらに吟味し、修士論文作成の基礎力を培い、論文の基本的構成を具体化する。それに基づいたデータ収集の準備を行う。これらについて受講者は資料を作成し発表して、プレゼンテーション能力を高めるとともに、相互に討議し、臨床心理学的研究方法についての研究意識を深める。

【授業の進め方】

主に受講者が発表し、それに関する討議を行うことで、内容の深化と多角化を図り、問題と目的が明確になるように助言を行い進める。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1回 オリエンテーション | 9回 研究計画の中間発表-1 |
| 2回 研究計画の検討-1 | 10回 研究計画の中間発表-2 |
| 3回 研究計画の検討-2 | 11回 研究計画の修正-1 |
| 4回 問題と目的の検討-1 | 12回 研究計画の修正-2 |
| 5回 問題と目的の検討-2 | 13回 データ収集の準備-1 |
| 6回 問題と目的の検討-3 | 14回 データ収集の準備-2 |
| 7回 題目の検討と決定-1 | 15回 夏期休暇の課題設定と総括 |
| 8回 題目の検討と決定-2 | |

【文献】

教科書：なし

参考書：随時紹介する

【成績評価】

①発表内容、②授業への参加態度などを総合的に判断し評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究 I	必修	2	前期	2	演習	米川 勉

【履修条件】

【教育目標】

これまでの授業や演習、実習内容を踏まえて、臨床心理に関する研究論文を作成するための研究計画を検討していく。研究方法としては、調査、実験、事例研究等のようなスタイルをとっても構わないが、研究者として自立できるように、一つのテーマを決めてやり遂げていくことで、専門における総合的な学問知識の修得や研究する態度の育成を試みる。

【内容】

学習者も興味・関心の方向性をはっきりさせ、それを心理学の研究としてどう展開していくかについて、主に個別指導によってキメ細かく指導していく。1つのテーマについて深く追求することの喜びを体験し、達成感を得るようにする。まず文献の講読を手がかりとして、問題を見つけ、その問題と取り組んでいく基本姿勢を養成する。次に目標の設定、調査や実験の準備、計画の建て方、実際の遂行、結果の整理、考察等の作業段階を順を追っていく。

【授業の進め方】

全体の流れは、次の3段階をもって進めていく。まず研究を進める上で各自が共通に認識し、修得しておくべき事柄について、書籍や文献等をもとに確認する。これらをもとに、各自の研究計画を発表していく。ゼミでの討議と個別の指導を織り交ぜて問題と目的を精査して、具体化された研究計画に従って、実施のための準備を整え、遂行していく。

特別研究では1年間を費やして、修士論文を完成させるが、そこに至るまでに多くの作業をこなさなければならない。そこで、全体を3期に区切って、次のような下位目標を設定する。

第1期：4月～6月

「問題と目的の作成」を目標として、研究計画を立案し発表する。この段階では、データベースを使った文献検索などを活用して、資料や文献を収集・整理して、レジメにまとめ、検討することを中心に行う。問題点が明確になってきたら、研究計画を立案していく。

第2期：7月～10月

調査や実験、臨床実践の遂行。この段階では、研究計画を具体化して、実施のための準備を整え、遂行してデータを得る。

第3期：11月～1月

結果の整理と考察。この段階では、得られたデータについて、最も適するデータ処理の仕方を求めて試行錯誤し、統計的な考え方を理解する。また結果の解釈に関して模索する。

上記3期のうち特別研究Ⅰでは、主に第1期と第2期を中心におこなう。多くの文献を読んで問題点を明確にして、研究計画を具体化していく努力をする。

【文献】

授業中に適宜紹介する

【成績評価】

ゼミでの発表、研究を進める態度、議論内容の理解度等で総合的に評価する。

【お知らせ】

科目名	必・選	年次	学期	単位	形態	担当者名
特別研究Ⅰ	必修	2	前期	2	演習	奇 恵英

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理学に対する専門的知識を深め、基本的知識にしっかり支えられた理論的考察力及び課題解決能力を身につけると同時に、現場での実践とつながる独創的で確固たる見知を身につけることを目標とする。

【内容】

親子関係、青年心理学、発達臨床心理学関係の指導が主であったが、臨床心理学的専門性が基礎となった内容を幅広く扱う。文献購読力（先行研究等の内容分析及び考察）の訓練をベースに、研究デザイン作成に必要な方法の理解を中心に進める。

【授業の進め方】

主に受講者の発表と全体のディスカッションを中心とすることで、内容の深化、多様な視点の獲得ができるように進める。

1) 各々の関心・興味に沿った先行研究の選定と講読

；要約に考察を加え、発表・ディスカッションを経て、自分の視点を定めていく。

；対象とする分野・領域の研究傾向、潮流を知ること、独創的な視点を確立するようにする。

2) 先行研究と既刊の基礎データをさらに収集し、自分の視点に基づいて問題を設定していく。または、さらに従来の視点を発展させるテーマを設定していく。

3) 問題の設定の妥当性、意義についてディスカッション等を通して検討し、それに合った方法を検討する。具体的には、先行研究で行われた方法の理解、分析を中心にレポートを作成、発表を行う。

4) 上記の流れを経て、研究デザインを完成する。

【文献】

学術誌、最新専門書を中心に、各自の文献検索能力向上のため、各々が選定する。必要に応じて参考文献等を紹介する。

【成績評価】

出席、発表力及び提出課題の内容の検討等から総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	大野 博之

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理学の専門性や学問的意義に対する深い理解、理論的知識や思考能力を基礎として専門における課題探求能力及び論理的説明能力を養うことを目標としており、修士論文の完成を通してそれを具現化する。修士論文作成のプロセス及び目標達成から、独創的かつ理論的思考力及び説明能力を確立した高度専門職業人の養成を目指す。

【内容】

修士論文の研究計画書の作成及び検討を行い、実際研究を進める中で、問題点や課題について多角的な視点から検討を重ね、修士論文の完成を目指す。

【授業の進め方】

主に、受講者の発表とディスカッション、それに基づいた助言を行う形式で授業を進める。具体的な流れは以下の通りである。

- 1) 研究計画書の作成及び検討
- 2) 研究方法の検討及び予備調査の実施
- 3) 本研究の方法検討及び実施
- 4) 結果及び考察の検討

【文献】

必要に応じて随時助言、提示する。

【成績評価】

課題達成能力、修士論文の内容及び質の程度等を考慮し、総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	牧 正興

【履修条件】

【教育目標】

各個人の研究テーマ設定に基づき、修士論文として完成させる。

【内容】

特別研究Ⅰに引き続き、そこで設定した研究テーマにしたがった内容を深化、具体化していく。その都度お互いの研究経過や成果を紹介することで研究へのモチベーションを高めていく。そこでは常に研究者としての姿勢を問いながら、研究内容の再吟味と幅のある知識醸成に努力する。

本科目では、研究領域に対する専門的知識はもちろんのこと、研究そのものが心理臨床家としてのアイデンティティを高め、単なる知的興味に終わらせないように心がけながら修士論文としてまとめあげていく。

【授業の進め方】

1. 研究資料と研究内容とのすり合わせ
2. 研究手続きに基づく研究の実施
3. 研究結果と考察

【文献】

各自の研究テーマに沿った文献・資料による。

【成績評価】

研究への熱意と意欲、研究姿勢、論文の完成度による総合評価。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	原口 芳博

【履修条件】

特別研究Ⅰを履修していること。

【教育目標】

特別研究Ⅰにて受講者が決定した研究題目、目的、方法などの研究計画に基づいて、データ収集を行い、その結果を解析し、考察を加え、臨床心理学に関する修士論文を完成させることを目標とする。

【内容】

決定された研究目的に従って、研究対象と方法を決定し、データ収集を行う。そこで得られた結果の解析を行うとともに、更に必要な文献検索を行い、結果についての討論を深め、考察を明確にするように指導する。このような作業を通して、論文

構成を論理的にし、客観的な記述の仕方、さらには研究的視点の確立を図る。

【授業の進め方】

主に受講生が発表し、それに関する討議を行うことで、内容の深化と多角化を図り、結果の解析や考察が明確になるように助言を行い進める。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1回 夏期休暇の課題報告と研究計画の再検討 -1 | 9回 研究経過発表 |
| 2回 夏期休暇の課題報告と研究計画の再検討 -2 | 10回 考察の検討 -1 |
| 3回 データ収集の準備と実行 -1 | 11回 考察の検討 -2 |
| 4回 データ収集の準備と実行 -2 | 12回 考察の検討 -3 |
| 5回 データ収集の準備と実行 -3 | 13回 研究成果の発表と検討 -1 |
| 6回 データ解析と記述 -1 | 14回 研究成果の発表と検討 -2 |
| 7回 データ解析と記述 -2 | 15回 総括 |
| 8回 データ解析と記述 -3 | |

【文献】

教科書：なし
参考書：随時紹介

【成績評価】

①発表内容、②論文の完成度、③授業への参加態度などを総合的に判断し評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	米川 勉

【履修条件】

特別研究Ⅰ を履修していること。

【教育目標】

臨床心理に関する修士論文を完成させる。研究手法としては、調査、実験、事例研究等のようなスタイルをとっても構わないが、一つのテーマを決めて、自分で考え、自分の力でやり遂げる体験を実践する。また論文完成までの作業を通して、専門における総合的な学問知識の再点検や、研究態度や対人関係における倫理的態度の育成を行う。

【内容】

基本的には学習者もつ興味・関心の方向性に基づいて、1つのテーマについて深く追求することの喜びを体験し、達成感を得るようにする。調査や実験、実践を遂行し、結果の整理と考察の作業を行い、最後のまとめへ向けて、考え方の整理の仕方等を個別に指導していく。

【授業の進め方】

特別研究では1年間を費やして、1つの論文を完成させるが、そこに至るまでに多くの作業をこなさなければならない。そこで、全体を3期に区切って、次のような下位目標を設定する。

第1期：4月～6月

「問題と目的の作成」を目標として、研究計画を立案し発表する。この段階では、データベースを使った文献検索などを活用して、資料や文献を収集・整理して、レジメにまとめ、検討することを中心に行う。問題点が明確になってきたら、研究計画に立案していく。

第2期：7月～10月

調査や実験、臨床実践の遂行。この段階では、研究計画を具体化して、実施のための準備を整え、遂行してデータを得る。

第3期：11月～1月

結果の整理と考察。この段階では、得られたデータについて、最も適するデータ処理の仕方を求めて試行錯誤し、統計的な考え方を理解する。また結果の解釈に関して模索する。

全体の流れは、上の3期に分けられ、そのうち特別研究Ⅰに引き続く特別研究Ⅱでは、主に第2期と第3期の内容となる。具体化された研究計画に従って、調査や実験、臨床実践を遂行してデータを得て、結果を整理する。この段階では、得られたデータについて、最も適するデータ処理の仕方を考え、統計的な考え方を理解していく。結果を解釈して、全体をまとめ上げることが最終の目標となる。

【文献】

授業中に適宜紹介する

【成績評価】

研究を進めていく上での態度、理解度、完成論文の内容等で総合的に評価する。

【お知らせ】

科 目 名	必・選	年 次	学 期	単 位	形 態	担 当 者 名
特別研究Ⅱ	必修	2	後期	2	演習	奇 恵英

【履修条件】

【教育目標】

臨床心理学に対する専門的知識を深め、基本的知識にしっかり支えられた理論的考察力及び課題解決能力を身につけると同時に、現場での実践とつながる独創的で確固たる見知を身につけることを目標とする。その具体的な目標として、修士論文の完成を目指して実践能力と同時に理論的思考及び眼目を育てる。

【内容】

親子関係、青年心理学、発達臨床心理学関係の指導が主であったが、臨床心理学的専門性が基礎となった内容を幅広く扱う。各々が作成した研究デザインをベースに修士論文完成に向けて必要な指導を行う。

【授業の進め方】

主に受講者の発表と全体のディスカッションを中心とすることで、内容の深化、多様な視点の獲得しながら、各々の独創的かつ発展的な修士論文作成が進むようにする。

まずは、研究デザインの作成、その見通しの検討を行い、ある程度の論理的根拠及び意義を定めた後、方法を選定、研究を進める。方法に関しては、内容に沿って、数量的分析が可能な調査、面接調査、事例など、諸種の心理学的研究方法を用いることができる。

分析、考察においては、発表・ディスカッション等を通して内容を多角的に検討するとともに、個別指導によって一定のペースで進むことができるよう配慮する。

【文献】

学術誌、最新専門書を中心に、各自の文献検索能力向上のため、各々が選定する。必要に応じて参考文献等を紹介する。

【成績評価】

出席、発表力及び提出課題の内容の検討等から総合的に評価する。

【お知らせ】

V. 大学院教員組織

1. 比較文化専攻教員組織

【教授】

難波 征男	比較文化特殊研究Ⅱ（東アジアの思想） 漢文学特殊研究 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
東 茂美	比較文化特殊研究Ⅲ（東アジアと日本古代文学） 比較文化特殊研究Ⅶ（国語教育論） 比較文化特殊研究Ⅷ（国語教材論） 日本文学総合演習 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
吉田 修作	古代文化特殊研究 民俗学特殊研究
廣田 稔	英語圏文学特殊研究Ⅰ（英語圏の比較文化と文学） 英語圏文学総合演習 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
池田 肇子	英語圏文学特殊研究Ⅱ（アメリカ文学） 英語圏文学特殊研究Ⅳ（アメリカのユダヤ系作家）
日野 資成	日本語学研究Ⅱ 言葉とコミュニケーション研究 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
上田 修	英語学特殊研究
細川 博文	英語学特殊研究
岩井 眞實	比較文化特殊研究Ⅴ（表象文化としての演劇） 比較文化特殊研究Ⅵ（近代演劇の成立） 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ

【兼任教授】

中川 憲次	キリスト教と人間
-------	----------

【兼任講師】

飯田 武郎	比較文化特殊研究Ⅰ（東アジアと英語圏文学） 英語圏文学特殊研究Ⅲ（イギリス文学）
-------	---

中村 萬里	日本語学研究 I
井上 洋子	日本近代文学特殊研究
金原 理	日本古典文学特殊研究
栗山 昌子	日本語学研究 I
	日本語学特殊研究 II (日本語教育)
志水 俊広	英語学研究 I
Daniel E.Corl	英米思想特殊研究
西野 常夫	比較文化特殊研究 IV (日本近代文学と西欧文化)
	日本文学総合演習
丸山 孝一	異文化交流特論
守山 恵子	日本語学特殊研究 I (日本語教育)
山崎 和夫	英語学研究 I
	英語学研究 II
山本 博	英語圏文学特殊研究 II (アメリカ文学)

2. 臨床心理学専攻教員組織

【人文科学研究科長・教授】

大野 博之	臨床心理面接特論 I
	臨床心理学特論 I
	臨床心理基礎実習
	臨床心理実習
	特別研究 I
	特別研究 II

【教授】

牧 正興	臨床心理学特論 II
	臨床心理面接特論 II
	臨床心理基礎実習
	臨床心理実習
	特別研究 I
	特別研究 II
原口 芳博	臨床心理査定演習 I
	臨床心理基礎実習
	臨床心理実習
	特別研究 I
	特別研究 II
中川 憲次	キリスト教と人間
米川 勉	臨床心理基礎実習
	臨床心理実習
	心理統計法特論
	特別研究 I

特別研究Ⅱ

【准 教 授】

奇 恵英	発達心理学特論 臨床心理基礎実習 臨床心理実習 特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ
重橋のぞみ	臨床心理基礎実習 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理実習
富永 幹人	臨床心理基礎実習 臨床心理実習 教育心理学特論

【兼任講師】

北島 茂樹	コミュニティ・アプローチ特論
鼻地 勝人	障害児者心理学特論
田崎 敏昭	社会心理学特論 生徒指導・進路指導（含実習）
辻 厚治	倫理学特論
林 幹男	学校臨床心理学特論
服巻 豊	臨床薬理学特論
東中園 聡	精神医学特論
増田 榮	西洋思想特論
丸山 孝一	異文化交流特論 教育人類学特論

VI. 学則および大学院関連規程

○福岡女学院大学大学院学則

2003（平15）年4月1日制定

最終改正 2011（平23）年4月1日

第1章 総則

第1条 本大学院は、キリスト教に基づく福岡女学院創立の精神に則り、総合的かつ精深・高度な学術研究を行なうとともに、専門的知識と研究能力を備え、国際社会に対応できる女性を育成するための教育を行うことを目的とする。

第2章 組織、学生定員及び修業年限

第2条 本大学院に、人文科学研究科修士課程をおく。

2 本研究科は、人文科学分野において広い視野に立ち、精深な学識を授け、高度の専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的とする。

第3条 本研究科に、比較文化専攻と臨床心理学専攻の二専攻をおく。

第3条の2 比較文化専攻は、世界各地の言語、文学、思想など文化現象の比較研究に関して、高度な専門知識と広い視野を備え、国際社会で活躍し得る人材の育成を目的とする。

臨床心理学専攻は、臨床心理学に関する精深な知識と技術をもち、広い視野に立って人々の心のケアに携わる専門家の育成を目的とする。

第4条 入学定員及び収容定員を次のように定める。

課 程		修 士 課 程	
研究科	専 攻	入学定員（名）	収容定員（名）
人文科学研究科	比較文化専攻	6	12
	臨床心理学専攻	10	20

第5条 修士課程の標準修業年限は2年とする。

第6条 修士課程に4年を超えて在学することはできない。

第3章 学年、学期及び休業日

第7条 本大学院の学年、学期及び休業日については、福岡女学院大学学則第6条、第7条、及び第8条を準用する。

第4章 教育課程

第8条 本大学院における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という）によって行うものとする。

第9条 研究科の授業科目の編成及びその単位数は、別表1のとおり定める。

第10条 人文科学研究科の授業科目の履修方法は別に定める。

第11条 教育研究上有益と認めるときは、学生は他の大学の大学院及び本学学部の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定により修得した単位は、合計10単位を超えない範囲で、本大学院において履修したものとみなすことができる。ただし、第13条の規定により認定された単位と合わせて10単位を超えないものとする。

第12条 教育研究上有益と認めるときは、他の大学の大学院又は研究所との協議に基づき、学生が他

の大学の大学院及び研究所において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 当該研究指導を受ける期間は、1年を超えることはできない。

第13条 学生が入学前に他の大学の大学院において修得した単位については、10単位を超えない範囲で本大学院において修得したものとみなすことができる。

第14条 授業科目の単位の認定は、試験又は研究報告により、当該科目担当教員が行う。

第5章 課程の修了及び学位の授与

第15条 本大学院に2年以上在学し、所定の授業科目を32単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格した者については研究科委員会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、研究科が当該課程の目的に応じ適当と認める場合は、特定の課題についての研究の成果をもって学位論文の審査に代えることができる。

3 学位論文の審査及び最終試験については、別に定める。

第16条 人文科学研究科比較文化専攻修士課程の修了を認定した者に対しては修士（比較文化）の学位を、人文科学研究科臨床心理学専攻修士課程の修了を認定した者に対しては修士（心理学）の学位を与え、学位記を授与する。

2 学位の授与に関する規程は、別に定める。

第6章 免許及び資格の取得

第17条 中学校教諭一種免許状または高等学校教諭一種免許状授与の所要資格を有する者で、それぞれの学校の教諭の専修免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める必要単位数を修得しなければならない。

2 本大学院の研究科において、取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

研究科	専攻	免許状の種類	免許教科
人文科学研究科	比較文化専攻	中学校教諭専修免許状	国語
			英語
		高等学校教諭専修免許状	国語
			英語
	臨床心理学専攻	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	公民

第7章 入学、休学、復学、退学、除籍、転入学、留学及び再入学

第18条 本大学院に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一 大学を卒業した者

二 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

三 文部科学大臣の指定した者

四 学校教育法第68条の2第3項の規定により大学評価・学位授与機構から、学士の学位を授与された者

五 その他、本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第19条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、十分な理由があると認めるときには、教育上支障がない限り、学期の始めとすることができる。

第20条 本大学院への入学を志望する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類及び写真を添えて、所定の期日までに願出しなければならない。

第21条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行い、合格者を決定する。

第22条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに誓約書、その他所定の書類を提出するとともに、入学金その他指定された納入金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

第23条 疾病その他やむを得ない理由で、3ヶ月以上修学できない者は、保証人連署の上理由書を付して願出、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者について、学長は休学を命ずることができる。

第24条 休学期間は、1年以内とする。ただし特別の理由がある場合は、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して2年を越えることはできない。

3 休学期間は、第6条の在学期間には算入しない。

4 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

第25条 退学を希望する者は、その理由を記して、保証人連署のうえ、願書を学長に提出しなければならない。

第26条 次の各号の一に該当する者は、研究科委員会の議を経て、学長がこれを除籍することができる。

一 期限までに学費の納入を行わず、督促してもなお納付しない者

二 第6条に定める在学年限を超えた者

三 第24条第2項に定める休学期間を超え、なお復学できない者

四 その他除籍が必要と認められる者

第27条 他の大学の大学院に入学又は転入学を志願しようとする場合は、学長の許可を得なければならない。

2 転入学が決定した者は、第25条と同様の退学願を学長に提出しなければならない。

第28条 外国の大学の大学院で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第6条に定める在学期間に含めることができる。

3 第11条の規定は、外国の大学の大学院へ留学する場合に準用する。

第29条 次の各号の一に該当する者で、本大学院への入学（再入学）を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

一 大学の大学院を修了、又は退学した者及び除籍された者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、研究科委員会の議を経て学長が決定する。

第8章 賞 罰

第30条 学生として表彰に値する行為があった者は、研究科委員会の議を経て、学長がこれを表彰することがある。

第31条 本大学院の学則又は諸規定に違反し、又は学生としての本分に反する行為があった者は、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学処分は次の各号の一に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがない者
- 二 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて、出席常でない者
- 四 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第9章 学 費

第32条 入学志願者は、入学検定料として32,000円を納入しなければならない。

第33条 本大学院学生は、次の納入金を指定された期日までに納入しなければならない。

- 一 入 学 金 本学からの入学生 110,000円
他大学からの入学生 210,000円
- 二 授 業 料 504,000円
- 三 その他の必要な費用

第34条 一旦納めた納入金は過誤によるもの以外は、一切返還しない。

第35条 休学期間中の授業料は、半額を免除する。

2 学位論文未提出のみにより標準修業年限を超えて在籍する者の学生納付金は、半額を免除する。

第36条 学費支弁の困難な者に対しては、その実情と学業成績とにより、一部を免除又は貸与することがある。

第10章 教職員組織及び運営組織

第37条 本大学院における授業及び研究指導は、本大学院担当の本学教員が行う。

第38条 本大学院に大学院委員会をおく。

2 大学院委員会は本大学院の重要事項の審議にあたる。

3 大学院委員会に関する規則は別に定める。

第39条 本大学院研究科に研究科委員会をおく。

2 研究科委員会は、その研究科の授業科目を担当する本大学教員をもって構成し、研究科長が必要であると認めた場合は、その他の職員を加えることができる。

第40条 研究科委員会は、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

2 研究科委員会は、次の事項について審議する。

- 一 教育課程に関する事項
- 二 本大学院学則に関連する諸規程の制定、改廃に関する事項
- 三 学生の入学、修了、休学、復学、退学、除籍、転入学、留学及び再入学に関する事項
- 四 学生の指導及び賞罰に関する事項
- 五 その他研究科長が必要と認めた事項

3 研究科委員会に関するその他の事項は別にこれを定める。

4 前項のうち校納金の改正等、理事会の専決事項については、意見を述べることはできるが、審議・決定することはできない。

第41条 本大学院に関する事務の執行は、大学の事務組織がこれにあたる。

第11章 研究指導施設及び厚生保健施設

第42条 学生の自由な研究には、本大学院研究室及び本学附属図書館を利用させる。

第43条 教職員及び学生の保健医療には本学健康センターを利用する。

第12章 聴講生、科目等履修生、研究生、特別研究生、特別研究員及び委託生

第44条 本大学院において、聴講または授業科目等の履修を志願する者があるときは、選考の上、教育研究に支障のない限り、これを許可することがある。

2 聴講生、科目等履修生、研究生、特別研究生、特別研究員及び委託生に関する規定は別にこれを定める。

第13章 外国人留学生

第45条 本大学院に外国人留学生として入学を志願する者には、選考の上、入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規定は別にこれを定める。

第14章 学則等の準用

第46条 この学則に定めるもののほか、本大学院の学生に関し、必要な事項は、福岡女学院大学学則及びその他の福岡女学院諸規程を準用する。

第15章 自己点検・評価

第47条 本大学院は、第1条の目的を達成するため、自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検項目及び実施体制については、別に定める。

附 則 ①

1 この学則の改正は、大学院研究科委員会の議を経て、理事会で行う。

2 この学則は、2003（平15）年4月1日から施行する。

附 則 ②

1 第9条別表1の一部を改正し、2004（平16）年4月1日から施行する。

附 則 ③

1 第1条、第18条、第9条別表1の一部を改正し、2005（平17）年4月1日から施行する。ただし、別表1（一）は2003（平15）年度入学生から適用する。別表1（二）は2004（平16）年度入学生から適用する。

2 第1条及び第18条の改正は、2006（平18）年度入学生から適用する。

附 則 ④

1 本改正学則は、2006（平18）年4月1日から施行する。ただし、別表1は2006（平18）年度入学生から適用する。

附 則 ⑤

1 本改正学則は、2008（平20）年4月1日から施行する。ただし、第15条は2006（平18）年度入学生から適用する。

附 則 ⑥

1 本改正学則は、2010（平22）年4月1日から施行する。

附 則 ⑦

この学則は、2011（平23）年4月1日から施行する。

別表1 (第9条関係)

1 人文科学研究科

授業科目及び単位数

(一) 比較文化専攻

基礎科目必修4単位、基幹科目選択6単位以上、基礎科目、基幹科目及び関連科目選択18単位以上、特別研究科目必修4単位、合計32単位以上修得のこと。

	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
基礎科目	キリスト教と人間 異文化交流特論 日本語学研究Ⅰ 日本語学研究Ⅱ 英語学研究Ⅰ 英語学研究Ⅱ 言葉とコミュニケーション研究	2 2	4 2 4 2 2	}
基幹科目	比較文化特殊研究Ⅰ (東アジアと英語圏文学) 比較文化特殊研究Ⅱ (東アジアの思想) 比較文化特殊研究Ⅲ (東アジアと日本古代文学) 比較文化特殊研究Ⅳ (日本近代文学と西欧文化) 比較文化特殊研究Ⅴ (表象文化としての演劇) 比較文化特殊研究Ⅵ (近代演劇の成立) 比較文化特殊研究Ⅶ (国語教育論) 比較文化特殊研究Ⅷ (国語教育論)		2 2 2 2 2 2 2 2	
関連科目	【第Ⅰ類】 日本古典文学特殊研究 日本近代文学特殊研究 日本文学総合演習 漢文学特殊研究 古代文化特殊研究 民俗学特殊研究 日本語学特殊研究Ⅰ (日本語教育) 日本語学特殊研究Ⅱ (日本語教育) 【第Ⅱ類】 英語学特殊研究 英語圏文学特殊研究Ⅰ (英語圏の比較文化と文学) 英語圏文学特殊研究Ⅱ (アメリカ文学) 英語圏文学特殊研究Ⅲ (イギリス文学) 英語圏文学特殊研究Ⅳ (アメリカのユダヤ系作家) 英語圏文学総合演習 英米思想特殊研究		2 2 4 2 2 2 2 2 2 4 2 4 2 2 2 2 2	}
特別研究科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ	2 2		

(二) 臨床心理学専攻

基礎科目必修6単位、基幹科目必修16単位、展開科目および関連科目から選択6単位以上、特別研究科目必修4単位、合計32単位以上修得のこと。

	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
基礎科目	キリスト教と人間 社会心理学特論 発達心理学特論	2 2 2		
基幹科目	臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅰ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習	2 2 2 2 2 2 2 2		
展開科目	人間関係特論 家族関係特論 心理学研究法特論 心理統計法特論 人格心理学特論 集団力学特論 精神医学特論 障害児者心理学特論 投影法特論 臨床薬理学特論 コミュニティ・アプローチ特論 教育心理学特論 学校臨床心理学特論		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	} 6単位以上選択
関連科目	異文化交流特論 教育人類学特論 高齢者心理療法特論 生徒指導・進路指導 (含実習) 教育評価・心理検査 (含実習) 倫理学特論 宗教哲学特論 西洋思想特論		2 2 2 2 2 2 2 2	
特別研究科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ	2 2		

○福岡女学院大学大学院学位規程

2003（平15）年4月1日制定

（趣 旨）

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)および福岡女学院大学大学院学則に基づき、福岡女学院大学（以下「本学」という。）において授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類）

第2条 本学大学院において授与する修士の学位は、次のとおりとする。

- 1 比較文化専攻修士（比較文化）
- 2 臨床心理学専攻修士（心理学）

（修士の学位授与）

第3条 学長は、本学大学院の修士課程を修了した者には、修士の学位を授与するものとする。

（修士の学位論文の提出）

第4条 本学大学院に1年以上在学し、所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けた者は修士の学位論文（以下「修士論文」という。）を提出することができる。

2 修士論文は、研究指導教授（以下「指導教授」という。）を経て、指定の期日までに研究科委員会に提出しなければならない。

（修士論文）

第5条 修士論文は、1篇1部とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。また、審査のため必要があるときは、研究科委員会は参考論文、関係資料等を提出させることができる。

（審査委員会）

第6条 研究科長は、第4条により修士論文が提出されたときは、研究科の教員から指導教授を含め2名以上の審査委員（うち1名は主査）を選出し、審査委員会を組織する。

2 研究科長は、審査のため必要と認めたときには、前項の規定にかかわらず、前項に定める教員以外の教員および他の大学院又は研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

3 審査委員は、修士論文の審査、最終試験に関する事項を行うものとする。

（修士論文の審査基準および最終試験）

第7条 修士論文は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度な専門性を要する職業等に必要の高度の能力を示すものでなければならない。

2 最終試験は、提出された修士論文の内容およびこれに関連する専攻分野の科目について、口述または筆記により行う。

（修士論文の審査期間等）

第8条 審査委員は、当該院生の在学期間内に、修士論文の審査および最終試験を終了しなければならない。

（審査結果の報告）

第9条 審査委員は、修士論文の審査および最終試験を終了したときは、速やかに審査結果および評価に関する意見を付して、最終試験の成績とともに、研究科委員会に報告しなければならない。

2 審査委員は、修士論文の審査の結果、その内容が著しく不適格であると認めるときは、最終試験を行わないことができる。この場合には、審査委員は、その旨を研究科委員会に報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

第10条 研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、修士の学位を授与することの可否を議決する。

2 前項の議決は、研究科委員会の構成員の3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成がなければならない。

(学長への報告)

第11条 研究科長は、研究科委員会が前条の議決をしたときは速やかに、これを学長に報告しなければならない。

(修士の学位記の授与)

第12条 学長は、前条の報告に基づいて、修士の学位の授与を議決された者に学位記を授与する。

2 修士の学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位授与の取り消し)

第13条 本学大学院において学位を授与された者に、次の事実があったときは、学長は研究科委員会の議を経て、その授与した学位を取り消し、学位記を返還させることができる。

(1) 不正に学位の授与を受けたことが明らかになったとき。

(2) 名誉を汚す行為があったとき。

(規程の改正)

第14条 この規程の改正は、研究科委員会の議を経て、学長が行う。

附 則 ①

1 この規程は、2003（平15）年4月1日に制定し、同日から施行する。

○福岡女学院大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程

2003（平15）年4月1日制定

（趣 旨）

第1条 本学の大学院教育を活性化するため、大学院にティーチング・アシスタント（以下TAという）を置く。

（定 義）

第2条 この規程におけるTAとは、指導教授の監督のもとで、主として学部の授業（卒業研究、演習、実験、実習）等の補助を行う者をいう。

（資格・採用）

第3条 TAは、大学院人文科学研究科に在学する学生のうちから選考し、学長が採用を決定する。

2 前項の選考は、希望者のうちから、研究科長が候補者を選び、毎年度始めに学長に推薦する。

（採用期間）

第4条 TAの採用期間は、当該年度限りとする。ただし、標準修業年限内の者にあつては、再選考のうえ再採用することがある。

（TA手当）

第5条 TAに採用された学生に対しては、TA手当を支給する。

2 TA手当の支給額については、別にこれを定める。

（所 管 課）

第6条 TAに関する事務は、大学事務部が行う。

（細 則）

第7条 この規程に定めるもののほか、TAに関する取り扱いについては、別に定めることができる。

（規程の改正）

第8条 この規程の改正は、研究科委員会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則 ①

1 この規程は、2003（平15）年4月1日に制定し、同日から施行する。



福岡女学院大学大学院

〒811-1313 福岡市南区日佐 3-42-1